

## マテオ福音書序言

**記者** 第一の福音書の記者と言われるのはマテオで本名はレヴィ、マテオは主に従つてのち得た名、マッタイから転化したのである。マッタイはヘブレオ語では「賜わった」の義、ギリシア語ではマットタヨス、ラテン語ではマッテウスと言う。彼がまさしく本書の記者であることは古代から信じられて、かつて疑いのないところであるとする。福音書によれば、マテオは当時ユダアで最も憎まれた税吏<sup>きさとり</sup>、すなわちローマ帝国のために租税を取りたてる官吏であったが、イエズスの一言葉の召しによって、ただちにいっさいを捨てて主に従い、十二使徒の一人となつた。聖靈降臨ののち、他の使徒とともにパレスチナ地方に福音を述べたが、古代の著述家の伝えるところによると、彼は広くエチオピア、アラビア、ペルシア、メディア、マケドニアにも布教して、ついに殉教したと信じられる。

**目的** 古代の著述家の言うところによれば、マテオ福音書は、キリスト教に帰依<sup>きえ</sup>したユデア人の信仰を長くつなぐために書いたものであると言う。本書の書きぶりからすれば實にそうである。おおかた記者は他の福音史家のように、地名、習慣などを解釈せず、これらのことが、すでに読者に通達しているものとしてこれをはぶき、もっぱら神をイスラエルの神と称し、キリストをユデア人の王と称し、キリストの談話のうち特にキリスト教とユデア教と相関連する事項をつ

まびらかにし、主がまずユダヤ人に布教すべきこと、律法學士をモイゼの後任者として聞くべきことを勧め給うたことなどを主として載せるのみならず、しばしば旧約聖書、殊に予言を引証し、それがイエズスにおいて成就<sup>じょうじゅ</sup>したことを証拠として、イエズスが実にキリストであることを明らかにした。本書がユダヤ人に宛てたものであることは、これによつて知られる。

区分 編を分かつこと四つ。第一はキリストの私生活（一～二章）、第二はキリストの公生活（三～二十章）、第三はキリストの最後の週間（二十一～二十七章）、第四はキリストの復活（二十八章）、以上がこれである。なお詳細は目次について見ること。

言語 本書が、もとヘブレオ語で書かれたことは、古代の著述家の定説であるようだ。そのいわゆるヘブレオ語は、バビロンの謫遷<sup>たくせん</sup>以来パレスチナ地方に流行したアラメアン方言、あるいはシロカルダイク語であろう。原書は早く失せて、今はただギリシア語の翻訳が存するだけ。しかしその翻訳は最も良好であつて、行文の簡潔雄大なることがその特色である。

記述の年代 これは明らかでない。あるいは聖マテオがパレスチナを去った時、すなわち紀元四一年から四八年までの間ではないかと言い、あるいは六一年以後ではないかと言う。

# マテオのイエズス・キリスト聖福音書

## 第一編 キリストの私生活

### 第一項 キリスト人性の系図

第二章

系図 1 アブラハム<sup>\*</sup>の子なるダヴィード<sup>\*</sup>の子イエズス・キリストの系図。<sup>\*</sup> 2 アブラハム、  
 3 イザアク<sup>\*</sup>を生み、イザアク、ヤコブ<sup>\*</sup>を生み<sup>4</sup>、ヤコブ、ユダとその兄弟らとを生み、3 ユダ、タマ  
 4 ルによりてファレスとザラとを生み<sup>7</sup>、ファレス、エスロン<sup>8</sup>を生み、エスロン、アラムを生み、4  
 5 アラム、アミナダブを生み、アミナダブ、ナアソンを生み<sup>9</sup>、ナアソン、サルモンを生み、5 サル  
 モン、ラハブによりてボオズを生み<sup>10</sup>、ボオズ、ルトによりてオベドを生み<sup>11</sup>、オベド、イエッセを  
 6 生み<sup>12</sup>、イエッセ、ダヴィード王<sup>13</sup>を生み、6 ダヴィード王、ウリアの「妻」たりし者<sup>11</sup>によりてサロモンを  
 生み、7 サロモン、ロボアムを生み、ロボアム、アビアを生み<sup>14</sup>、アビア、アザ<sup>15</sup>を生み、8 アザ、  
 9 ヨザファトを生み、ヨザファト、ヨラムを生み<sup>16</sup>、ヨラム、オジアを生み、9 オジア、ヨアタムを  
 10 生み<sup>17</sup>、ヨアタム、アカズを生み、アカズ、エゼキアを生み<sup>18</sup>、10 エゼキア、マナッセを生み、マナ  
 11 ッセ、アモンを生み、アモン、ヨジアを生み、11 バビロンに移さるるころ、ヨジア、イエコニア<sup>21</sup>  
 12 とその兄弟らとを生み、12 バビロンに移されたるのち、イエコニア、サラチエルを生み、サラチ

13 エル、ゾロバベルを生み、13 ゾロバベル、アビユドを生み、アビユド、エリアキムを生み、エリ  
 14 アキム、アゾルを生み、14 アゾル、サドクを生み、サドク、アキムを生み、アキム、エリユドを  
 生み、15 エリユド、エレアザルを生み、エレアザル、マタンを生み、マタン、ヤコブを生み、16  
 ヤコブ、マリアの夫ヨゼフを生み、このマリアよりキリストと称するイエズス生まれ給えり。  
 17 歴代の合算 17 されば歴代は、すべてアブラハムよりダヴィードまで十四代、ダヴィードよりバビ  
 ロンに移さるるまで十四代、バビロンに移されてよりキリストまで十四代「とす」。

## 第二項 ヨゼフとマリアとの婚姻およびキリストの誕生

ヨゼフ天使の告げをこうむる 18さてキリストの生まれ給いし次第は次のどとし。その母マリ  
 18 ア、ヨゼフに許婚いいなすけせられしに、同居せざる前、聖靈せいれいによりて懷胎かいたいせること現われしが、19 夫ヨゼ  
 19 フ義人ぎじんにして彼を訴うることを好まざれば、ひそかにこれを離別せんと思えり。20 これらのこと  
 を思いめぐらすおりしも、主の使、彼が夢に現われて言いけるは、ダヴィードの子ヨゼフよ、汝の  
 20 妻マリアをいるることを恐るるなかれ、けだし彼に宿れるものは聖靈によれり。21 彼一子いっしを生ま  
 21 ん、汝その名をイエズスと名づくべし、そは自ら、おのが民を、その罪より救うべければなり、  
 22 と。22 すべてこのことのなりしは、主がかつて予言者をもつてのたまいしことの成就じょうじゅせんためな  
 22 り、23 いわく「見よ童貞女懷胎どうていじょかいたいして一子いっしを生まん、その名はエンマヌエルとなえられん」と。  
 23 エンマヌエルとは、われらとともにまします神の義ぎなり。24 ヨゼフ眠りより起きて、主の使より命

<sup>25</sup> ゼられしどとくにして、その妻をいれしが、<sup>25</sup> 床をともにせずして初子ういこを生むに至れり、しかして、その子の名をイエズスと名づけたり。

① 子孫の意。② ルカ3・23～38 ③ 創世記21 ④ 創世記25・25 ⑤ イスラエル十二族の元祖。⑥ 創世記38・6 ⑦ 創世記38・29 ⑧ 創世記46・12 ⑨ ルト記4・21、このところは数代はぶかれた。生むは間接に生むの意。⑩ また数代はぶかれた。⑪ サムエル下11・26 ⑫ サムエル下12・24 ⑬ 列王記略上11・43 ⑭ 列王記略上14・31 ⑮ 列王記略上15・8 ⑯ ここにオユジアとヨアとアマジアとの三代がはぶかれた。⑰ 歴代史略下26・23 ⑱ 歴代史略下27・9 ⑲ 歴代史略下28・27 ⑳ 歴代史略下32・33 ㉑ ここにヨアキムの一代がはぶかれた。歴代史略上3・15、16 ㉒ あるいはマリアを汝の妻としている。㉓ 救い主の意。㉔ イザヤ7・14 ㉕ 聖書中、初子とあるのは、いつも初めて生んだ子という意味にすぎず、少しも、のちに子があるという意を示さぬ。㉖ 原文には「初子を生むまで床をともにせざりき」とあるが、ここに訳する意である。本書13・33、ルカ13・21などにあると同様。ヘブレオ語の「まで」は単にその時に至るまでの意を示すものであって、その後の事変に關係の意を含まない。

### 第三項 博士たちの参拝はかせさんぱい

#### 第三章

博士たちエルザレムに来る 1 かくてイエズス、ヘロデ王王の時、ユダのペトレヘムに

2 生まれ給いしかば、おりしも博士たち東方よりエルザレムに来りて、<sup>2</sup> 言いけるは、生まれたるユデア人の王はいすこにいますぞ、すなわち、われら東方にて彼が星を見、これを拝みに来れり、<sup>4-3</sup> と。<sup>3</sup> ヘロデ王これを聞きてうろたえしが、エルザレムもまた、こぞりてしかありき。<sup>4</sup> 王は司リツボウ長カクと民間ミンカンの律法學士リツボウガクジとを、ことごとく集めて、キリストいすこに生まるべきかと聞いたるに、<sup>6-5</sup> 5 彼ら言ひけるは、ユデアのペトレヘムに、そは予言者の書きしるして、<sup>6</sup> 「ユダの地ペトレヘ

ムよ、汝はユダの郡中に最も小さきものにはあらず、けだし、わがイスラエルの民を牧すべき君、  
 7 汝のうちより出でん<sup>4</sup>」とあればなり、と。7その時ヘロデひそかに博士たちを召して、星の現  
 8 われし時を聞きだし、8彼らをペトロヘムに送るとして言ひけるは、行きて、つまびらかに幼子おさなこ  
 のことを尋ね、そを見出ださば、われに告げよ、われも行きて、これを拝まん、と。

9 ペトロヘムに参拝す 9彼ら王の言葉を聞きて出で行きけるに、おりしも東方にて見たりし星  
 10 彼らの先に立ち、ついに幼子のおる所に至りて、その上に留まり。10彼ら、その星を見て、は  
 11 なはだ喜び、11家に入りて幼子の、その母マリアとともにおるを見、平伏ひづぶしてこれを拝し、宝箱  
 12 を開きて黄金おうごん、乳香じゅうこう、没薬もくやくの礼物れいもつを献げたり。12かくてヘロデに帰ることなかれとの示しを夢に  
 得て、他の道より、おのが国に帰れり。

#### 第四項 聖家族エジプトへ避難す

13 天使、避難を命ず 13博士たちの去りしのち、おりしも主の使、ヨゼフの夢に現われて言ひけ  
 るは、起きて幼子と、その母とを携えてエジプトにのがれ、わが汝に告ぐるまで、かしこにおれ、  
 14 そはヘロデ幼子を殺さんとて、これを求めるとすればなり、と。14ヨゼフ起きて幼子と、その母  
 15 とを携えて夜エジプトに避け、15ヘロデの死するまで、そこにおれり、これ主よりかつて予言者  
 をもって言われことの成就せんためなり、いわく「われ、わが子をエジプトより呼び出だせり」<sup>6</sup>と。

16

幼子ら殺さる 16 時にヘロデ、博士たちに欺かれしを見て大いに怒り、人を遣わして博士たちに聞きたりし時を計りて、ベトレヘムおよびその四方にある二歳以下の男児を、ことごとく殺せり。17 かくて予言者エレミアによりて言われたること成就せり<sup>じょうじゅ</sup>、18 いわく「ラマに声あり、嘆きにして大いなる叫びなりけり、ラケルその子どもを嘆き、彼らのなきにより、あえて慰めをいれず」と。

## 第五項 エジプトよりの帰國<sup>きこく</sup>

天使、帰国を命ず 19 ヘロデ死せしかば、おりしも主の使、エジプトにおいてヨゼフの夢に現われ、20 言いけるは、起きて幼子と、その母とを携えてイスラエルの地に行け、けだし幼子の生命<sup>まき</sup>を求める人々は、すでに死せり、と。21 ヨゼフ起きて幼子と、その母とを携え、イスラエルの地に至りしに、22 アルケラオ、その父ヘロデに継ぎてユダヤを治むと聞き、かしこに行くことを恐れしが、また夢に告げありてガリレアの地方に避け、23 ナザレトと言う町に至りて住めり。これ予言者たちによりて「彼はナザレト人となえられん」と言われこととの成就せんためなり。

① ラテン訳ではユダ。② その誕生の印と思われる星、流星に類して格別に輝くものであったのだろう。③ ラテン訳では治むべき。④ ミケア5・2、ヨハネ7・42 ⑤ ラテン訳では返事。⑥ ホゼア11・1 ⑦ ラケルはヤコブの妻であつてベトレヘムに葬られた。墓において、その子どもの殺されたことを嘆いたように言われる。ラマはエルザレム付近の町である。⑧ エレミア31・15 ⑨ ルカ2・39、40

## 第二編 キリストの公生活

### 第一項 キリスト宣教の予備

第一款 洗者ヨハネの先駆

#### 第三章 ヨハネの出世

1 そのころ洗者ヨハネ来りてユダヤの荒野に教えを述べ、

2 言ひけるは、汝ら改心せよ、天国は近づけり、と。3 けだし、これ予言者イザヤによりて言わ

れし人なり、いわく「荒野に呼ばわる人の声ありて言う、汝ら主の道を備え、その小道こみちを直くせよ」と。4 ヨハネは、らくだの毛衣むぎを着、腰に皮帶かわおびをしめ、いなごと野蜜とを常食となしいたりき。

5 時にエルサレム、ユダヤ全国、ヨルダン川に沿える全地方「の人」彼のもとに出で、6 おのが罪を告白して、ヨルダンにて洗せられおりしが、7 多くのファリサイ人およびサドカイ人の、お

のれに洗せられんとて来るを見て、ヨハネこれに言ひけるは、まむしの末すえよ、来るべき怒りをの

9-8 がることを、たれか汝らに教えしそ。8 されば改心の相当なる実を結べよ。9 汝ら、われらの

父にアブラハムありと心のうちに言わんとすることなけれ、けだし、われ汝らに告ぐ、神は、こ

10 れらの石よりアブラハムのために子どもを起こすことを得給う。10 砍おすでに木の根に置かれたり、ゆえに、すべて良き実を結ばざる木は切られて火に投げ入れらるべし。

11 キリストを証明すマルコ1・8、ルカ3・16、ヨハネ1・26、使徒行録1・5 11 われは改心のために水にて汝らを洗すれども、

<sup>12</sup> わがのちに來り給う者は、われよりも力あり、われは、そのはきものを取るにも足らず、彼は聖靈と火とにて汝らを洗し給うべし。<sup>12</sup> 彼の手に箕フタありて、その打ち場を清め、麦は倉に納め、穀カムは消えざる火にて焼き給うべし、と。

## 第二款 キリスト自身の予備

キリスト洗せられ給う（マルコ1・<sup>21</sup><sub>9</sub>、<sup>22</sup><sub>11</sub>） 13 この時イエズス、ヨハネに洗せられんとて、ガリレアよりヨルダン〔川〕に來り給いしかば、<sup>14</sup> ヨハネ辭して言ひけるは、われこそ汝に洗せらるべきに、汝、われに來り給うか。<sup>15</sup> イエズス答えてのたまひけるは、しばらく、そを許せ、かくわれらが正しきことを、ことごとく遂ぐるは当然なればなり、と。ここにおいてヨハネこれに許ししかば、<sup>16</sup> イエズス洗せられて、ただちに水より上がり給いしが、おりしも天、彼のために開け、神の靈、鳩のごとくくだりて、わが上に來り給うを見給えり、<sup>17</sup> おりしも、また天より声ありて「これぞ、わが心を安んぜる、わが愛子なる」と言えり。

①ルカ3・1 ②ラテン訳では悔悛。③イザヤ40・3、マルコ1・2、ルカ3・4 ④マルコ1・5 ⑤ラテン訳では悔悛。⑥ヨハネ8・39、⑦ラテン訳では悔悛。⑧審判し給うの意。⑨ルカ3・22 ⑩ルカ3・22、9・35、ペトロ後書1・17

イエズス、断食して試みられ給う（マルコ1・<sup>12</sup><sub>1</sub>、<sup>13</sup><sub>13</sub>） 1さてイエズス、悪魔に試みられんため、〔聖〕靈によりて荒野あらのに導かれ給いしが、<sup>2</sup> 四十日四十夜、断食し給いしかば、のちに

3 飢え給えり。3 試むるもの近づきて、汝もし神の子ならば、命じて、この石をパンとなしめよ。  
 4 と言ひければ、4 イエズス答えてのたまひけるは、書きしるして「人の生けるはパンのみによる  
 5 にあらず、また神の口より出するすべての言葉による<sup>1</sup>」とあり、と。5 その時、悪魔<sup>あくま</sup>、彼を携え  
 6 て聖なる都に行き、「神<sup>神</sup>殿の頂<sup>いただき</sup>に立たせて、6 言ひけるは、汝もし神の子ならば身を投げよ、  
 そは書きしるして「神、汝のために、その使たちに命じ給えり、汝の足の石に突き当たらざるよ  
 う、彼ら手にて汝をささえん<sup>2</sup>」とあればなり。7 イエズスのたまひけるは、また書きしるして「主  
 8 たる汝の神を試むべからず<sup>3</sup>」とあり、と。8 悪魔また彼を携えて、いと高き山に行き、世の諸国  
 9 と、その榮華<sup>えいが</sup>とを示して、9 言ひけるは、汝もし平伏して、われを拝せば、これらのもものを、こ  
 10 とごとく汝に与えん。10 その時イエズスのたまひけるは、サタン<sup>\*</sup>退け、けだし書きしるして「汝  
 11 の神たる主を拝し、これにのみ仕うべし<sup>4</sup>」とあり、と。11 ここにおいて悪魔、彼を離れしが、お  
 りしも天使たち近づきて彼に仕えたり。

## 第二項 イエズスのキリストたることを

証明すべき事実および談話

### 第一款 イエズス布教の初め

12 イエズス、カフルナウムに住み給う（マルコ1：14<sup>21</sup>、ルカ4：15<sup>22</sup>） 12 イエズス、ヨハネの捕われしを聞  
 き給いしかば、ガリレアに避け、13 ナザレトの町を去り、ザブロンとネフタリムとの境なる湖辺<sup>うみべ</sup>

14 の地 カファルナウムに至りて住み給いしが、14 これ予言者イザヤによりて言われしことの成就せんためなり、15 いわく「ザブロンの地、ネフタリムの地、ヨルダンのかなたなる湖辺の道、異邦人のガリレア、16 暗闇に坐せる人民、大いなる光を見、死の陰の地に坐せる人々の上に光出でたり」と。17 この時よりイエズス初めて教えを述べ、「改心せよ、けだし天国は近づけり」とのたまえり。

18 イエズス、初めの弟子ヤシを召し給う（マルコ5・116<sup>11 20</sup>） 18 イエズス、ガリレアの湖辺を歩み給うに、二人の兄弟すなわちペトロと呼ばるシモンと、その兄弟アンデレアとの湖に網打てるを見<sup>19</sup>二人は漁師なりき<sup>20</sup>彼らに向かいて、われに従え、われ汝らをして人をすなどる者とならしめん、とのたまいしかば、20 彼ら、ただちに網をおきて従えり。21 イエズス、ここより進み給いて、またほかに二人の兄弟すなわちセペデオの子ヤコボと、その兄弟ヨハネとが、父ゼベデオとともに船にて網を繕うを見、これを召し給いしに、22 彼ら、ただちに網と父とをおきて従えり。  
 23 イエズスの名声広がる（マルコ4・4235<sup>44 39</sup>） 23 イエズス、あまねくガリレアを巡り、諸所の会堂にて教え、「天」国の福音を述べ、また民間のすべての病<sup>ヤまい</sup>、すべてのわづらいをいやし給いければ、24 その名声あまねくシリアに広がり、わずらえる者、さまざまの病と苦しみとにかかる者、悪魔につかれたる者、てんかん、中風に悩める者を、みな彼に差し出だしけるに、イエズスこれをいやし給い、25 ガリレア、デカポリ、エルザレム、ユデアまたはヨルダン「川」のかなたより、おびただしき群衆來り従えり。<sup>7</sup>

①申命記8・3 ②詩編90・11 ③申命記6・16 ④申命記6・13 ⑤イザヤ9・1 ⑥ラテン訳では悔い改め

よ。⑦マルコ3・7、8、ルカ6・17

第二款 山上さんじょうの説教せつきょう

第五章

1 イエズス、群衆を見て山に登りて坐し給いしかば、弟子たち、これに近づきけるに。

2 イエズス、口を開きて彼らに教えてのたまひけるは、

真福八端

3 幸いなるかな心の貧しき人、天国は彼らのものなればなり。4 幸いなるかな柔和にゆうわ

なる人、彼らは地を得べければなり。5 幸いなるかな泣く人、彼らは慰めらるべければなり。6

幸いなるかな義に飢えかわく人、彼らは飽かさるべければなり。7 幸いなるかな慈悲ある人、彼

らは慈悲を得べければなり。8 幸いなるかな心の清き人、彼らは神を見奉るべければなり。9 幸

いなるかな和睦わぼくせしむる人、彼らは神の子どもととなえらるべければなり。10 幸いなるかな義の

いなるかな忍ぶ人、天国は彼らのものなればなり。11 わがために人々汝らを呪い、かつ迫害し、

12 かつ偽りて、汝らにつきて、あらゆる悪声あくせいを放たん時、汝ら幸いなるかな、13 喜びおどれ、そは

天における汝らの報い、はなはだ多かるべければなり。けだし汝らより先にありし予言者たちも、

かく迫害せられたり。

13 信者の天職てんしょく 13 汝らは地の塩なり、塩もし、その味を失わば、何をもってか、これに塩せん、

14 もはや用なく、外に捨てられて人に踏まるべきのみ。14 汝らは世の光なり。山上に建てたる町

15 は隠ることあたわず。15 人はまた灯ともしびをともしてますの下に置かず、家にあるすべてのものを照

らさんために、これを燭台の上に置く。<sup>7</sup> 16 かくのごとく、汝らの光は人の前に輝くべし、しからば人は汝らの善業<sup>せんぎょう</sup>を見て、天にまします汝らの父に光榮を帰せん<sup>8</sup>。

**旧新両法の関係** 17 われ律法もしくは予言者を廃せんとて来れりとと思うことなけれ、廃せんとて來りしにはあらず、全うせんがためなり。18 けだし、われ誠に汝らに告ぐ、天地の過ぐるまでは、律法より一点一画もすたらずして、ことごとく成就<sup>じょうじゅ</sup>するに至る<sup>9</sup>べし。19 ゆえに、かの最も小さき掟<sup>おきて</sup>の一つを廃し、かつそのまま人に教うる者は、天国にて最も小さき者となえられん、されど、これを行ない、かつ教うる者は、天国にて大いなる者となえられん。<sup>10</sup> 20 けだし、われ汝らに告ぐ、もし汝らの義<sup>ぎ</sup>、律法學士<sup>りつぽうがくし\*</sup>、ファリザイ人<sup>\*</sup>らのそれにまさるにあらずば、汝ら天国に入らざるべし。

**第五戒のこと** 21 「殺すなけれ、殺す人は裁判せらるべし」<sup>12</sup>と、いにしえの人々に言われしは、汝らの聞けるところなり。22 されど、われ汝らに告ぐ、すべて、その兄弟を怒る人は裁判せらるべし、その兄弟を愚か者よと言う人は衆議所<sup>しゅうぎしょ</sup>の処分を受けん、しれ者よと言う人は地獄の火に当たるべし。23 ゆえに汝もし供え物を祭壇<sup>さいだん</sup>に献ぐる時、そこにおいて何にもあれ兄弟に恨まるることあるを思い出ださば、24 その供え物を、そこに、祭壇の前にさしおき、まず行きて兄弟と和睦<sup>わがく</sup>し、かかるのち來りて、その供え物を獻げよ。25 汝、相手とともに道にあるうちに早く和解せよ、おそらくは相手より判事<sup>はんじ</sup>に渡され、判事より下役に渡され、ついに監獄に入れられん、26 われ誠に汝に告ぐ、最終<sup>さいじゅう</sup>の一りんを返すまでは、そこを出でざるべし。

**第六戒のこと** 27 「汝、姦淫<sup>かんいん</sup>するなけれ」<sup>14</sup>と、いにしえの人々に言われしは汝らの聞けるところ

28 なり。28 されど、われ汝らに告ぐ、すべて色情を起ことんとて女を見る人は、すでに心のうちに、  
 29 これと姦淫したるなり。29 もし汝の右の目、汝をつまずかさば、これをくじりて捨てよ、そは汝  
 30 にとりて、五体の一つの滅ぶるは、全身を地獄に投げ入れらるるにまさればなり。<sup>15</sup> 30 もし汝の右  
 の手、汝をつまずかさば、これを切りて捨てよ、そは汝にとりて、五体の一つの滅ぶるは、全身  
 の地獄に行くにまさればなり。

離婚のこと 31 また「何人も妻を出ださば、これに離縁状を与うべし」<sup>16</sup> と言われたることあり。  
 32 されど、われ汝らに告ぐ、すべて私通のゆえならで妻を出だす人は、これをして姦淫せしむる  
 なり、また出だされたる女をめとる人も姦淫するなり。<sup>17</sup>

誓いのこと 33 また「偽り誓うなけれ、誓いたることは主に果たすべし」と、いにしえの人々に  
 34 言われしは、汝らの聞けるところなり。34 されど、われ汝らに告ぐ、断じて誓うなけれ。天をさ  
 35 して「誓うなけれ」、そは神の玉座なればなり。35 地をさして「誓うなけれ」、そは神の足台なれ  
 36 ばなり。エルザレムをさして「誓うなけれ」、そは大王の都なればなり。36 汝の頭をさして誓う  
 37 なけれ、そは一すじの髪だも白く、あるいは黒くすることを得ざればなり。37 汝ら、ただ、しか  
 りしかり、いみな、と言え、これより過ぐるところは悪より出ずるなり。<sup>18</sup>

返報のこと 38 また「目にて目を「償い」、歯にて歯を「償うべし」と言われしは汝らの聞  
 39 けるところなり。39 されど、われ汝らに告ぐ、悪人に逆らうなけれ。人もし汝の頬<sup>ほお</sup>を打たば、  
 40 他の「頬」<sup>ほお</sup>をも、これに向けよ。40 また汝を訴えて下着を取らんとする人には、上着をも渡せ。<sup>20</sup>  
 41 また汝を、しいて一千歩を歩ませんとする人あらば、なお二千歩を彼とともに歩め。42 汝にこ

う人に与えよ、汝に借らんとする人に身をそむくることなかれ。<sup>22</sup>

### 相愛のこと

43 「汝の近き者を愛し、汝の敵を憎むべし」と言われしは、汝らの聞けるところな

44 り。44 されど、われ汝らに告ぐ、汝らの敵を愛し、汝らを憎む人を恵み、汝らを迫害し、かつざん  
45 謗する人のために祈れ。<sup>25</sup> 45 これ天にまします汝らの父の子どもたらんためなり、そは父は善人に

46 も悪人にも日を照らし、義者にも不義者にも雨を降らし給えばなり。46 汝ら、おのれを愛する人

47 を愛すればとて、何の報いをか得べき、税吏も、しかするにあらずや。47 また、おのれの兄弟らに

のみ挨拶すればとて、何のすぐれたることをかなせる、異邦人も、しかするにあらずや。

### 完徳の極

48 ゆえに汝らの天父の完全にましますごとく汝らもまた完全なれ。

- ① ルカ6・20 ② 詩編36・11 ③ イザヤ61・2 ④ 詩編23・4 ⑤ ペトロ前書2・20、3・14、4・14 ⑥ マルコ9・49、ルカ14・34 ⑦ マルコ4・21、ルカ8・16、11・33 ⑧ ペトロ前書2・12 ⑨ ルカ16・17 ⑩ ヤコボ書2・10 ⑪ 德行の意。ルカ11・39 ⑫ 出エジプト記20・13、申命記5・17 ⑬ ルカ12・58 ⑭ 出エジプト記20・14、申命記5・18 ⑮ マルコ9・46、本書18・9 ⑯ 申命記24・1、本書19・7 ⑰ マルコ10・11、ルカ16・18、コリント前書7・10 ⑲ 出エジプト記20・7、レビ記19・12、申命記5・11、ヤコボ書5・12 ⑳ 出エジプト記21・24、レビ記24・20、申命記19・21 ㉑ ルカ6・29 ㉒ ルカ6・29、コリント前書6・7 ㉓ 申命記15・8 ㉔ レビ記19・18 ㉕ ルカ6・27、ロマ書12・20 ㉖ ルカ23・34、使徒行録7・59

### 1



善業に関する教訓 1 人に見られんとて人の前に汝らの義をなさざるよう慎しめ。しか

らば天にまします汝らの父のみ前に報いを得じ。

施しつきて 2 されば施しなすにあたりて、偽善者が人に尊ばれんとて会堂および巷にな

すごとく、おのが前にラッパを吹くことなかれ。われ誠に汝らに告ぐ、彼らはすでに、その報い

3 を受けたり。3 汝が施しをなすにあたりて、右の手のなすところ、左の手これを知るべからず。

4 4 これ汝の施しの隠れんためなり、しかば隠れたるに見給う汝の父は汝に報い給うべし。

5 祈りにつきて 5 また祈る時、偽善者のごとくすることなかれ。彼らは人に見られんとて、会堂に、巷の隅に立ちて祈ることを好む。われ誠に汝らに告ぐ、彼らはすでに、その報いを受けたり。6 汝は祈るに、おのが室に入りて戸を閉じ、隠れたるにありて汝の父に祈れ、さらば隠れたるに見給う汝の父は汝に報い給うべし。7 また祈るに異邦人のごとく繰り言をなすことなかれ、彼らは言葉の多きによりて聞き入れられんと思うなり。8 ゆえに彼らにならうことなかれ、そは汝らの父は、汝らの願わざる前に、その要するところを知り給えばなり。9 されば汝ら、かく祈るべし。

主祷文（ルカ11・2～4）天にましますわれらの父よ、願わくは、み名の聖とせられんことを、<sup>10</sup>  
 み国の来らんことを、み旨の天に行なわるることなく地にも行なわれんことを。11 われらの日用の糧を今日われらに与え給え。12 われらが、おのれに負債ある人を許すごとく、われらの負債をも許し給え。13 われらを試みに引き給うことなく、かえつて悪より救い給え。（アーメン）と。  
 14 けだし汝ら、もし人の罪を許さば、汝らの天父も汝らの罪を許し給うべく、<sup>15</sup>汝ら、もし人を許さずば、汝らの父も汝らの罪を許し給わざるべし。

断食につきて 16 汝ら断食する時、偽善者のごとく悲しき様をなすことなかれ。すなわち彼らは、断食する者と人に見えたために、その顔色をそこなうなり。われ誠に汝らに告ぐ、彼らはすでに、その報いを受けたり。17 汝は断食する時、頭に油をつけ、かつ顔を洗え、<sup>18</sup>これ断食する

者と人に見えずして、隠れたるにいます汝の父に見えんためなり、しからば隠れたるに見給う汝の父は汝に報い給うべし。

**宝につきて** (ルカ<sup>12・33</sup>、<sup>19・34</sup> テモテオ前書<sup>6・19・34</sup>) 19 汝ら、おのれのために宝を地にたくわうることなけれ、ここにはさびとしみと食い破り、盜人うがちて盗むなり。20 汝ら、おのれのために宝を天にたくわえよ、かしこには、さびもしも破らず、盜人うがたず盗まさるなり。21 そは汝の宝のある所に心もまたあればなり。

**結局** (ルカ<sup>11・34</sup>) 22 汝の身の灯<sup>ともしび</sup>は目なり。もし汝の目清くば、全身明らかにならん。23 汝の目悪しくば、全身暗からん。されば汝の身にある光すら暗闇<sup>くらやみ</sup>ならば、暗闇そのものは、いかがあるべきぞ。

**世のおもんばかりにつきて** (ルカ<sup>16・13</sup>) 24 たれも二人の主に、かね仕うことあたわず、そ

は、あるいは一人を憎みて一人を愛し、あるいは一人に従いて一人をうとむべければなり。汝らは神と富とに、かね仕うことあたわず、25 ゆえに、われ汝らに告ぐ、生命<sup>いのち</sup>のために何を食い、身のために何を着んかと思<sup>3</sup>いわざらうなけれ、生命<sup>いのち</sup>は食物<sup>じょくぶつ</sup>にまさり、身は衣服<sup>いきぎ</sup>にまさるにあらずや。26 空の鳥を見よ、彼らはまくことなく、刈ることなく、倉に納むことなきに、汝らの天父<sup>てんぶ</sup>は、これを養い給う、汝らは、これよりも、はるかにまされるにあらずや。27 汝らのうち、たれか思いわざらいて、その生命<sup>せいめい</sup><sup>5</sup>一肘<sup>あしゅう</sup><sup>6</sup>だも加うることを得る。28 また何とて衣服のために思<sup>4</sup>いわづらうや、野のゆりの、いかにして育つかを見よ、働くことなく、紡ぐことなし、29 されども、われ汝らに告ぐ、サロモン<sup>\*</sup>だも、その栄華<sup>えいが</sup>の極みにおいて、このゆりの一つほどに装<sup>よそお</sup>わざりき。30

今日ありて、明日炉に投げ入れらるる野の草をさえ、神は、かく裝わせ給えば、いわんや汝らをや、信仰薄き者よ。31されば汝らは、われら何を食い、何を飲み、何を着んかと書いて思ひわづらうことなれ、32これみな異邦人の求むるところにして、汝らの天父は、これらのもの、みな汝らに要あるを知り給えばなり。

**希求の順序** 33ゆえに、まず神の国と、その義とを求めよ、しからばこれらのもの、みな汝らに加えらるべし。34されば明日のために思ひわづらうことなれ、明日は明日自ら、おのれのためにはいわづらわん、その日は、その日の労苦にて足れり。

①徳行の意。②ルカ11・4、本書18・35、マルコ11・25 ③詩編54・23、ルカ12・22、フィリッピ書4・6、チモテオ前書6・7、ペトロ前書5・7 ④ラテン訳では考へて。⑤ラテン訳では丈(たけ)とあるが、ギリシア語では生命と丈との二つの意味をかねてあるから、ここでは生命の意であろう。⑥一肘は五一・五センチの長さで、わずかの間を示す。⑦神の義とは聖徳を言う。もっぱら神のみ心にかなうことを求めよの意。

**是非すべからず** 1人を是非することなれ、さらば汝らも是非せられじ、2そは人を

3是非したることくに是非せられ、計りたる計りにてまた計らるべきなれ。3汝、何ぞ兄弟の4目にちりを見て、おのが目にうつぱりを見ざるや。4あるいは汝の目にうつぱりあるに、何ぞ兄弟に向かいて、われをして汝の目よりちりを除かしめよと言うや。5偽善者よ、まず、おのれの目よりうつぱりを除け、しからば明らかに見えて、兄弟の目よりちりをも除くべし。

6 もつたいたなきこと 6聖物を犬に与うることなれ、また汝らの真珠を豚の前に投ぐることなかれ、おそらくは足にてこれを踏み、かつ顧みて汝らをかまん。

7 希望をもつて祈るべし 7願え、さらば与えられん、探せ、さらば見出ださん、たたけ、さら

ば「戸を」開かれん、<sup>8</sup> そは、すべて願う人は受け、探す人は見出だし、たたく人は「戸を」開かるべければなり。<sup>9</sup> あるいは汝らのうち、たれか、その子パンをこわんに石を与えるや、<sup>10</sup> あるいは魚をこわんに蛇<sup>11</sup>を与えるや。<sup>11</sup> されば汝ら悪しき者ながらも、良き賜ものを、その子どもに与うるを知れば、いわんや天にまします汝らの父は、おのれに願う人々に良きものを賜うべきをや。<sup>12</sup> されば、すべて人になされんと欲することを、汝らも人になせ、<sup>13</sup> けだし律法と予言者とは、それなり。<sup>6</sup>

**狭き門**（ルカ13・<sup>24</sup>） **13** 汝ら狭き門より入れ、けだし滅びに至る門は広く、その道も広くして、これよりに入る人多し。<sup>14</sup> ああ生命に至る門狭く、その道も狭くして、これを見出だす人少なきかな。  
**偽教師**を警戒すべし（ルカ6・<sup>43</sup> ~ <sup>45</sup>） **15** 汝ら偽予言者を警戒せよ、彼らは羊の衣服を着て汝らに至れども、内は荒き狼なり、<sup>16</sup> その結ぶ実によりて彼らを知るべし。あに茨<sup>17</sup>よりぶどうを取り、あざみよりいちじくを取ることあらんや。<sup>17</sup> かくのごとく、すべて良き木は良き実を結び、悪しき木は悪しき実を結ぶ、<sup>18</sup> 良き木は悪しき実を結ぶあたわず、悪しき木は良き実を結ぶあたわず。<sup>19</sup> すべて良き実を結ばざる木は切られて火に投げ入れらるべし。<sup>20</sup> ゆえに汝ら、その結ぶ実によりて彼らを知るべし。

**無益の頼み** **21** われに主よ主よと言ふ人々が父のみ旨を行なう人こそ天国に入るべきなれ。<sup>22</sup> かの日には、多くの人われに向かいて、主よ主よ、われらは、み名によりて予言し、かつ、み名によりて惡魔<sup>23</sup>を追い払い、かつ、み名によりて多くの奇跡を行ないしにあらずや、と言わんとす。<sup>23</sup> その時、われ彼らに宣言せん、われ、かつて汝ら

を知らず、悪をなす者よ、われを去れ、と。<sup>11</sup>

**説教の結末** 24されば、すべてわがこの言葉を聞き、かつこれを行なう人は、岩の上に、その家を建てたる賢き人に比せられん、<sup>12</sup>雨降り、川あふれ、風吹きて、その家を突きたれども、倒れざりき、そは岩の上に基もとしたればなり。26また、すべてわがこの言葉を聞きて、これを行なわざる人は、砂の上に、その家を建てたる愚かなる人に似ん、<sup>27</sup>雨降り、川あふれ、風吹きて、その家を突きたれば、倒れて、そのくずれ、はなはだしかりき、と「教え給えり」。

**聴聞者の感動** 28イエズス、これらの言葉を述べ終わり給いければ、群衆その教えに感嘆しいたり。29そは彼らの律法學士\*とファリザイ人\*とのごとくにせずして、權威ある者のごとくに教え給えばなり。

- ①ルカ6・37～42、ロマ書2・1    ②マルコ4・24    ③本書21・22、マルコ11・24、ルカ11・9、ヨハネ14・13、ヤコボ書1・6    ④ルカ11・11    ⑤ルカ6・31    ⑥律法と予言者との教えるところは結局これにほかならぬ。⑦本書3・10    ⑧本書25・11、ルカ6・46    ⑨審判の日。⑩使徒行録19・13    ⑪本書25・41、ルカ13・27    ⑫ルカ6・48、ロマ書2・13、ヤコボ書1・22    ⑬マルコ1・22、ルカ4・32

### 第三款 ガリレアにおける種々の奇跡

**第八章** **らい病者いやさる**(マルコ1・40～16<sup>45</sup>) 1イエズス山をくだり給いしに、群衆おびただしく従いしが、2おりしも一人のらい病者來り、拝して言ひけるは、主よ、おぼしめしならば、わかれを清くすることを得給う、と。3イエズス、手をのべて彼に触れ、わが意なり、清くなれ、と

4 のたまいければ、そのらい病、ただちに清くなれり。4 イエズスこれにのたまいけるは、慎みて人に語るなかれ、ただし行きて、おのれを司祭に見せ<sup>1</sup>、彼らへの証拠として、モイゼの命ぜし供え物を献げよ、と。

5 **百夫長のしもべいやざる**（ルカ7・1～10）5 かくてイエズス、カファルナウムに入り給いしが、6 百夫長近づきて、6 願いて言ひけるは、主よ、わがしもべ中風ちゆうふうにて家にふし、いたく苦しめり、8-7 と。7 イエズス、われ行きて、そをいやさん、とのたまいしかば、8 百夫長答えて言ひけるは、主よ、われは不肖ふしょうにして、主のわが屋根の下に入り給うに足らず、ただ一言葉ひとことにて命じ給え、さらば、わがしもべいえん。9 けだし、われも人の権下けんかに立つ者ながら、部下に兵卒ありて、これに行けと言ひば行き、彼に来れ「と言ひば」來り、また、わがしもべに、これをなせ「と言ひば」なすなり、と。10 イエズス、これを聞きて感嘆し、従える者にのたまいけるは、われ誠に汝らに告ぐ、イスラエルのうちにても、かほどの信仰に会いしことなし。11 われ汝らに告ぐ、多くの人、東西とうざいより来りて、アブラハム、イザアク、ヤコブとともに天国に坐せん、12 されど国の子らは外の闇に追い出だされん、そこには嘆きと歯がみとあらん、と。13 かくてイエズス、百夫長に向かい、行け、汝の信せしごとく汝になれ、とのたまいければ、しもべ即時にいえたり。

14 **ペトロの姑しゅういやざる**（マルコ1・29～31 ルカ4・38～39）14 イエズス、ペトロの家に入り給いて、彼が姑の熱を病みてふせるを見、15 その手に触れ給いしかば、熱その身を去り、起きて彼らに給仕したり。

16 **多くの人いやざる**（マルコ1・32 ルカ4・40～41 34）16 日暮れてのち、人々悪魔あくまにつかれたる者を多く差し出だししが、イエズス悪魔を一言葉にて追い払い、病者をもことごとくいやし給えり。17 これ予言

者イザヤによりて言われしことの成就せんためなり、いわく「彼は、われらのわざらいを受け、  
 18 われらの病<sup>やまい</sup>を負い給えり」と。18 イエズス、まわりに群衆のおびただしきを見て、湖<sup>うみ</sup>のかなたへ  
 行かんことを命じ給いしかば、19 一人の律法學士<sup>\*</sup>近づきて、師よ、いざこへ行き給うとも、われ  
 は従わん、と言いしに、20 イエズス、これにのたまひけるは、狐<sup>きつね</sup>は穴あり、空の鳥は巣<sup>すず</sup>あり、さ  
 れど人の子<sup>\*</sup>は枕<sup>まくら</sup>する所なし、と。21 また弟子の一人、主よ、わがまづ行きて父を葬ることを許し  
 給え、と言いしに、22 イエズスのたまひけるは、われに従え、死人をして、その死人を葬らしめ  
 よ、と。

23 イエズス嵐<sup>嵐</sup>を静め給う(ルカ8・22<sup>35</sup> ~ 25<sup>40</sup>) 23 イエズス、小舟に乗り給い、弟子たち、これに従  
 いしが、24 おりしも湖<sup>うみ</sup>に大いなる嵐起ことりて、小舟波におおわるるほどなるに、イエズスは眠り  
 い給えり。25 弟子たち近づきて、これを起こし、主よ、われらを救い給え、われら滅ぶ、と言い  
 ければ、26 イエズス彼らにのたまひけるは、何ぞ恐るるや、信仰薄き者よ、と。すなわち起きて  
 風と湖<sup>うみ</sup>とを戒め給いしに、大嵐<sup>なぎ</sup>となれり。27 かくて人々感嘆して、これは何人ぞや、風も湖も、こ  
 れに従うよ、と言えり。

28 ゲラサの悪魔<sup>あくま</sup>つきいやざる(ルカ8・1<sup>20</sup> ~ 39) 28 イエズス湖<sup>うみ</sup>のかなたなるゲラサ人の地に至り  
 給いしに、悪魔につかれたる者一人、墓より出でて迎え来れり。かねてより、その猛<sup>たけ</sup>きこと、は  
 なはだしく、たれも、その道を過ぎ得ざるほどなりしが、29 たちまち叫びて言ひけるは、神のみ  
 子イエズスよ、われらと汝と何のかかわりかあらん、時<sup>か</sup>まだ至らざるに、われらを苦しめんと  
 て、ここに來り給えるか、と。30 しかるに彼らをきること遠からぬ所に、多くの豚の群、もの食

31 いいければ、31 悪魔ども、イエズスに願いて言ひけるは、もし、われらをここより追い払い給わ  
 32 ば、豚の群のうちにやり給え、と。32 イエズス、彼らに、行け、とのたまひしかば、彼ら出でて  
 33 豚につき、見る見る群みな、あわただしく崖より湖に飛び入りて水に死せり。33 牧者ら逃げて町  
 34 に至り、いつさいのことと、悪魔につかれたりし人々のこととを吹聴せしかば、34 ただちに町こ  
 ぞりてイエズスを出で迎え、これを見るや、その境を過ぎ給わんことをこえり。

① レビ記14・2 ② マラキア1・11 ③ イザヤ53・4、ペトロ前書2・24 ④ ルカ9・58 ⑤ ルカ9・59、60  
**中風者いやさる**（マルコ2・1～12） 1 イエズス小舟に乗り、湖を渡りて、おのが町に至  
 2 り給いしに、2 おりしも人々、床にふせる中風者を差し出だしければ、イエズス彼らの信仰を見  
 3 て中風者にのたまひけるは、子よ、たのもしかれ、汝の罪許さる、と。3 おりしも、ある律法學  
 4 士ら心のうちに、彼は冒瀆の言葉をはけり、と言ひしが、4 イエズス彼らの心を見抜きてのたま  
 5 ひけるは、汝ら何ぞ心に悪しきことを思うや。5 汝の罪許さると言うと、起きて歩めと言うと、  
 6 いづれかやすき。6さて、人の子、地において罪を許すの権あることを汝らに知らせん、とて中  
 7 風者に向かい、起きよ、床ベッドを取りて、おのが家に行け、とのたまひしかば、7 彼、起きて家に行  
 8 けり。8 群衆これを見て恐れ、かかる権能を人に賜いたる神に光榮を歸したり。

マテオ召さる（マルコ2・13～17） 9 イエズスここを出で給う時、マテオと名づくる人の收稅署しゆうぜいしょ  
 10 に坐せるを見て、われに従え、とのたまひしかば、彼立ちて従えり。10 かくてイエズスその家に  
 食につき給うおりしも、稅吏みつぎとり、罪人つみびと多く來りて、イエズスおよびその弟子たちとともに坐しけれ  
 11 ば、11 フアリザイ人ら見て弟子たちに言ひけるは、汝らの師は何ゆえ、稅吏みつぎとり、罪人つみびとと食をともに

12 するぞ、と。12 イエズス聞きてのたまひけるは、医者を要するは健やかなる人にあらずして病める人なり。13 汝ら行きて「わが好むは、あわれみなり、犠牲にあらず」とは何のいいなるかを学べ。

それ、わが來りしは義人ぎじんを呼ぶためにあらず、罪人ざいじんを呼ぶためなり、と。

14 断食の場合(マルコ2・33 〜 39) 14 時にヨハネの弟子たち、イエズスに近づきて言ひけるは、わ

15 れらとファリザイ人\*とは、しばしば断食するに、汝の弟子たちは何ゆえに断食せざるぞ。15 イエズス彼らにのたまひけるは、花婿はなよしの介添え、あに花婿の、おのれらとともにある間に悲しむを得んや、されど花婿の彼らより奪わるる日来らん、その時には断食せん。16 あら布ぬのの切れをもつて古き衣服を継ぐ人はあらず、そは、その切れ衣服を裂きて、破れますます大いなればなり。17 また新しき酒を古き皮袋かわぐろに盛る者はあらず、しかせば皮袋破れ、酒流れて、袋もまたすたらん、新しき酒は新しき皮袋に盛り、かくて二つながら保つなり、と。

18 ヤイルの願い(マルコ5・40 〜 42) 18 イエズスこれらのこと語り給えるおりしも、一人の司近づき、拝して言ひけるは、主よ、わが娘、今死せり、されど來りて彼にあんしゅ接手し給え、さらば生きん、と。

19 血漏ちろうの女いやさる(マルコ8・43 〜 48) 19 イエズス立ちて、これに従い給い、弟子たちも従い行きけるに、20 おりしも血漏ちろうをわざらえること十二年なる女、うしろより近づきてイエズスの衣服のふさに触れたり、21 そは、その衣服に触れだにせば、われいえん、と心に思ひいたればなり。22 イエズス振り返りてこれを見給い、女よ、たのもしかれ、汝の信仰、汝をいやせり、とのたもうや、女、即時にいえたり。

ヤイルの娘よみがえる（マルコ5・49<sup>35</sup>（56<sup>43</sup>）） 23 イエズス、司<sup>つかさ</sup>の家に至り、笛吹きと騒げる群衆とを見て、24 汝ら退け、娘は死したるにあらず、寝ねたるなり、とのたまなければ、人々彼を笑えり。25 群衆の出だされしのち、イエズス入りてその手を取り給いしかば、娘起きたり、26 かくて、その名聲<sup>きこえ</sup>、あまねくその地に広がれり。

二人のめしいやさる 27 イエズスここを去り給うに、二人のめしい、ダヴィドの子よ、われらをあわれみ給え、と叫びつつ従いしが、28 イエズス、家に至り給いし時、めしいら近づきしかば、彼らにのたまいけるは、われ、これを汝らになすことを得<sup>う</sup>と信ずるか、と。彼ら、主よ、しかし、と答えければ、29 イエズス、手をその目に触れて、その信仰のままに汝らになれ、とのたもうや、30 彼らの目開けたり。イエズスキびしく彼らを戒めて、人に知れざるよう慎しめ、とのたまいしかど、31 彼ら出でて、あまねくその地にイエズスの噂<sup>うわさ</sup>を言い広めたり。

悪魔<sup>あくま</sup>につかれたるおしいやさる 32 彼らの出でたるおりしも、人々悪魔につかれたる一人のおしをイエズスに差し出だししかば、33 悪魔追い払われておしもの言い、群衆感嘆して、かかることは、かつてイスラエルのうちに現われことなし、と言いしかど、34 フアリザイ人<sup>\*</sup>らは、彼が悪魔を追い払うは悪魔の頭によるなり、と言いおれり。

#### 第四款 イエズスおよび使徒たちのガリレア布教<sup>ふきょう</sup>

35 ガリレア巡教<sup>じゅんきょう</sup> 35 イエズス、もろもろの町、村を経巡り、その会堂に教えを説き<sup>と</sup>、〔天〕国の

<sup>36</sup>福音を述べ、かつ、もうもうの病、もうもうのわざらいをいやしい給いしが、<sup>36</sup>群衆を見て、そ  
<sup>37</sup>の悩みて牧者なき羊のごとくふせるをあわれみ給えり。<sup>37</sup>さて弟子たちにのたまひけるは、刈り  
<sup>38</sup>入れは多けれども、働く者は少なし、<sup>38</sup>ゆえに働く者を、その刈り入れに遣わさんことを、刈り  
 入れの主に願え、<sup>4</sup>と。

①ホゼア6・6、本書12・7②チモテオ前書1・15 ③マルコ6・6 ④ルカ10・2

**第十二章 十二使徒派遣**（マルコ6・11<sup>7</sup>） 1 イエズスおのが十二の弟子を呼び集め、これに汚鬼ど  
 もを追い払い、もろもろの病、もろもろのわざらいをいやす権能を賜いしが、2 その十二使徒の  
 3 名は、第一、ペトロと言えるシモン、その兄弟アンデレア、3 ゼベデオの子ヤコボおよびその兄  
 弟ヨハネ、フィリップおよびバルトロメオ、トマおよび税吏マテオ、アルフェオの「子」ヤコボお  
 よびタデオ、4 カナアンのシモンおよびイエズスを売りしイスカリオテのユダこれなり。

**当分の布教方針**（マルコ9・3～5<sup>11</sup>） 5 イエズスこの十二人を遣わすとて命じてのたまひけるは、  
 6 汝ら異邦人の道に行かず、サマリア人の町にも入らず、6 むしろイスラエルの家の迷える羊に行  
 8-7 け。7 行きて天国は近づけりと述べ教えよ。8 病人をいやし、死人をよみがえらせ、らい病人を  
 9 清くし、悪魔を追い払え。価なしに受けたれば価なしに与えよ。9 金、銀またはせにを汝らの帶  
 10 に持つことなけれ、10 旅袋も一枚の下着も、靴も杖もまた同じ、そは働く人は、その糧を受くる  
 11 に価すればなり。11 いすれの町、村に入るも、そのうちにふさわしき人のたれなるかを尋ねて、  
 13-12 出するまでそこに留まれ。12 家に入る時、この家に平安あれかしと書いて、これを祝せよ、13 そ  
 の家、はたして、これに価するものならば、汝らの〔祈る〕平安その上にのぞまん、もし価せざる

14 ものならば、その平安汝らに帰らん。<sup>14</sup>すべて汝らを受けず、汝らの言葉を聞かざる人に向かいては、その家または町を出でて、足のちりを払え。<sup>15</sup>われ誠に汝らに告ぐ、審判の日にあたりて、ソドマ人とゴモラ人との地は、この町よりも忍びやすからん。

16 将来の方針(ルカ10・<sup>3</sup>)<sup>16</sup> 16 見よ、わが汝らを遣わすは、羊を狼の中に「入るるが」ごとし、  
17 ゆえに、蛇のごとくさとく、鳩のごとく素直なれ。<sup>17</sup>人に警戒せよ、そは汝らを衆議所に渡し、  
18 また、その諸会堂にてむち打つべければなり。<sup>18</sup>また、わがために汝ら官吏、帝王の前に引かれ  
て、彼らおよび異邦人に証となることあるべし。<sup>19</sup>渡さるる時、いかに、または何を言わん、と  
20 案することなかれ、言うべきことは、その時、汝らに賜わるべければなり。<sup>20</sup>けだし、その語る  
21 は汝らにあらずして、父の靈の汝らのうちにましまして語り給うなり。<sup>21</sup>さりながら兄弟は兄弟  
22 を死に渡し、父は子を渡し、子どもは両親に逆らい、かつ、これを殺さん、<sup>22</sup>また、わが名のた  
23 めに、汝らすべての人憎まれん、されど終わりまで堪え忍ぶ人は救わるべし。<sup>23</sup>この町にて迫  
害せられなば他の町にのがれよ、われ誠に汝らに告ぐ、人の子の来るまでに、汝ライスラエルの  
町々をつくさざるべし。

25-24 常に心得べきこと 24 弟子は、その師にまさらず、しもべは、その主人にまさらざるなり。<sup>4</sup>  
弟子としては、その師のごとく、しもべとしては、その主人のごとくなれば足れり。人々、家父<sup>25</sup>  
26 をベエルゼブ<sup>\*</sup>と名づけたれば、いわんや、その族をや。<sup>26</sup>されば彼らを恐るるなれ、そは、  
27 おおわれて現われざるべきはなく、隠れて知れざるべきはなければなり。<sup>27</sup>わが暗闇<sup>くらやみ</sup>において汝  
28 らに言うことを、汝ら明るみにおいて言え、耳を当てて聞くことを屋根の上にて述べよ。<sup>28</sup>また

身を殺して魂を殺し得ざる者を恐ることなけれ、むしろ魂と身とを地獄に滅ぼし得る者を恐れよ。29二羽のすずめは一せんにて売るにあらずや、しかも汝らの父によらずしては、その一羽だも地に落つることあらじ。30汝らは髪の毛までも、みな数えられたり、31ゆえに恐ることなけれ、汝らは多くのすずめにまされり。

**忠実の報い** 32されば、すべて人の前に、われを宣言する人は、われもまた天にましますわが父のみ前に、これを否むべし。33人の前に、われを否む人は、われもまた天にましますわが父平和にあらずして刃なり。34われ地に平和を持ち来れりと思うことなけれ、わが持ち来れるはその姑より分かつべきなり。35すなわち、わが来れるは、人をその父より、娘をその母より、嫁を36人の族は、その仇となるべし。37われよりも父もしくは母を愛する人は、われにふさわづ、われよりも子もしくは娘を愛する人は、われにふさわづ。38また、おのが十字架を取りて、われに従わざる人は、われにふさわざるなり。39おのが魂を保つ人は、これ失い、わがために魂を失う人は、これを保たん。

**弟子に対する業の報い** (ヨハネ13:10~16) 40汝らを受くる人は、われを受くるなり、われを受くる人は、われを遣わし給いし者を受くるなり。41予言者の名のために予言者を受くる人は、予言者の報いを受け、義人の名のために義人を受くる人は、義人の報いを受けん。42たれにもあれ、弟子の名のために、冷や水の一杯をも、このいと小さき者の一人に飲まする人は、われ誠に汝らに告ぐ、その報いを失うことあらじ「とのたまえり」。

きものことであろう。③ルカ12・11 ④ルカ6・40、ヨハネ13・16、15・20 ⑤マルコ4・22、ルカ8・17、12、  
 2 ⑥神の意。⑦原文には一アスとある。二せん二りんに当たる銅貨。⑧マルコ8・38、ルカ9・26、12・9、チモ  
 テオ後書2・12 ⑨ルカ12・51 ⑩ミケア7・6 ⑪ルカ14・26 ⑫本番16・24、マルコ8・34、ルカ14・27  
 ⑬本書16・25を見よ ⑭ルカ9・24、17・33、ヨハネ12・25 ⑮マルコ9・40

### 第五款 イエズスおよび洗者ヨハネ

1 第十一章 布教に出で給う 1かくてイエズス、十二の弟子に命じ終わり給いて、彼らの町々に  
 教え、かつ説教せんとて、そこを去り給いしが、

2 ヨハネ、弟子をイエズスに遣わす（ルカ7・18） 2ヨハネは監獄にありてキリストの業わざを聞きし  
 3 かば、その弟子の二人を遣わして、3彼に言わしめるは、来るべき者は汝なるか、あるいは、  
 4 われらの待てる者、なおほかにあるか、と。4イエズス、彼らに答えてのたまひけるは、行きて  
 5 汝らの聞き、かつ見しころをヨハネに告げよ、5めしいは見え、足なえは歩み、らい病者は清  
 6 くなり、耳しいは聞こえ、死者はよみがえり、貧者ひんじやは福音を聞かせらる、6かくて、われにつき  
 て、つまずかざる人は幸いなり、と。

7 ヨハネ賞賛せらる 7彼らの去るや、イエズス、ヨハネのことを、群衆に語り出で給いけるは、  
 8 汝ら何を見んとて荒野あれのに出でしそ、風に動かさるる葦よしか。8さらば何を見んとて出でしそ、柔らか  
 9 きものを着たる人か、見よ、柔らかきものを着たる人々は帝王ていおうの家にあり。9さらば何を見んと  
 10 出でしそ、予言者か、われ汝らに告ぐ、しかり、予言者よりもまされる者なり。10書きしるし

て、「見よ、わが使を汝の面前に遣わさん、彼、汝に先立ちて汝の道を備うべし」とあるは、彼<sup>3</sup>がことなり。11 われ誠に汝らに告ぐ、女より生まれたる者のうちに、洗者ヨハネより大いなる者は、いまだかつて起こらず、されど天国にて最も小さき人も、彼よりは大いなり。12 洗者ヨハネの日より今に至りて、天国は暴力に襲われ、暴力の者これを奪う、13 そは、もろもろの予言者と律法との予言したるは、ヨハネに至るまでなればなり。14 汝ら、もし悟らんと欲せば、彼は来るべきエリア<sup>4</sup>なり。15 聞く耳を持てる人は聞け。

現代とがめらる 16 現代を、たれにたとえんか、あたかも巷に坐せるわらべが友だちに叫びて、17 われら汝らのために笛吹きたれども汝ら踊らず、われら嘆きたれども汝ら悲しまざりき、<sup>5</sup> と宣言に似たり。18 けだし、ヨハネ来りて飲食せざれば、惡魔につかれたりと言われ、19 人の子<sup>\*</sup> 来りて飲食すれば、見よ、彼は食をむさぼり、酒を飲む人にて、税吏<sup>みづきとり</sup>および罪人<sup>つみひと</sup>の友なり、と言わる。さりながら知恵は、その子らに正しとせられたり、と。

#### 第六款 不信仰の報いと信仰の報い

コロザイン等、禍いを告げらる 20 さてイエズス、奇跡<sup>\*</sup>の多く行なわれたる町々の改心<sup>6</sup>せざるによりて、これを責め始め給いけるは、21 禍いなるかな汝ヨロザイン<sup>\*</sup>、禍いなるかな汝ペッサイダ<sup>\*</sup>、けだし、汝らのうちに行なわれし奇跡、もしチロ<sup>\*</sup>とシドンとのうちに行なわれしならば、彼らは、つとに改心<sup>7</sup>して、荒き毛衣<sup>けどうる</sup>をまとい灰をこうむりしならん。<sup>8</sup> されば、われ汝らに告ぐ、

23 審判の日において、チロとシドンとは、汝らよりも忍びやすからん。23 カファルナウムよ、汝も何ぞ天にまで上げられんや、まさに地獄にまでも陥るべし。けだし汝のうちに行なわれし奇跡<sup>\*</sup>、24 もしソドマに行なわれしならば、彼は必ず、今日まで、なお残りしならん。24 されば、われ汝らに告ぐ、審判の日において、ソドマの地は汝よりも忍びやすからん、と。

25 イエズスの感謝 25 その時、イエズスまたのたまいけるは、天地の主なる父よ、われ汝を賛美す、そは、これらのことを、学者、知者に隠して、小さき人々に表わし給いたればなり。25 しかし父よ、かくのごときは、み心にかないしゆえなり。<sup>10</sup> 27 いつさいのものは、わが父より、われに賜われり、父のほかに子を知る者なく、子および子よりあえて示されたらん者のほかに、父を知る者なし。

26 かたじけなき招待 28 われに来れ、すべて労苦して重荷を負える者よ、われ汝らを回復せしめん。29 われは柔軟にして心謙遜なるがゆえに、汝ら自ら、わがくびきを取りて、われに学べ、さらば汝らの魂に安息を得べし。30 そは、わが「負わする」くびきは快く、荷は軽ければなり。

<sup>①</sup> イザヤ 35・5 <sup>②</sup> マラキア 3・1 <sup>③</sup> マルコ 1・2、ルカ 7・27 <sup>④</sup> マラキア 4・5 <sup>⑤</sup> ラテン訳では歌いたれども。 <sup>⑥</sup> ラテン訳では悔い改めざる。 <sup>⑦</sup> ラテン訳では悔い改めて。 <sup>⑧</sup> ルカ 10・13 <sup>⑨</sup> ラテン訳では答えて。 <sup>⑩</sup> ルカ 10・21 <sup>⑪</sup> 人がくびきを取るとは、その人の権力または教訓に帰服することを形容して言った。

### 第三項 イエズスに敵するもの起ころ

#### 第一款 イエズスとファリサイ人

1

## 第十二章

## 弟子たち安息日に麦の穂を摘む

(マルコ2・23  
ルカ6・1-5)1 そのころ、イエズス、<sup>あんそくじつ</sup>安息日に

2 あたりて「麦」畑を過ぎ給いしが、弟子たち飢えて穂を摘み食い始めしかば、<sup>\*</sup>2 フアリザイ人これを見てイエズスに向かい、見よ、汝の弟子たち安息日になすべからざることをなすぞ、<sup>\*</sup>3 と  
3 しに、<sup>3</sup>イエズスのたまいけるは、ダヴィード<sup>\*</sup>が、おのれおよび伴える人々の飢えし時になしこ  
とを、汝ら読まさりしか。<sup>4</sup>すなわち彼は神の家<sup>1</sup>に入り、司祭ならでは、彼も伴える人々も食す  
べからざる供えのパンを食せしなり。<sup>5</sup>また安息日に司祭たち「神」殿にて安息を犯せども罪なし、<sup>6</sup>と律法にあるを読まさりしか。<sup>6</sup>われ汝らに告ぐ、「神」殿よりも大いなるもの、ここにあり。<sup>7</sup>汝ら、もし「わが好むは、あわれみなり、犠牲<sup>8</sup>にあらず<sup>4</sup>」とは何のいいなるかを知らば、<sup>7</sup>  
7 罪なき人を罪せざりしならん、<sup>8</sup>そは人の子<sup>\*</sup>はまた安息日の主<sup>9</sup>なればなり、<sup>8</sup>と。

10-9 手なえいやさる(マルコ3・1-6  
ルカ6・6-11) 9 イエズスことを去りて彼らの会堂に至り給いしに、<sup>10</sup>おり  
しも片手なえたる人あり。彼らイエズスを訴えんとて、安息日にいやすはよきか、<sup>11</sup>と問いかば、<sup>10</sup>  
11 イエズスのたまいけるは、汝らのうち一頭<sup>12</sup>の羊を持てる者あらんに、もし、その羊、安息日に  
12 穴に陥らば、たれかこれを取り上げざらんや、<sup>12</sup>人の羊にまされること、いくばくぞや。されば  
13 安息日に善をなすはよし、<sup>13</sup>と。<sup>13</sup>やがて、その人に、手をのべよ、とのたまいければ、彼のばし  
たるに、その手いえて他と等しくなれり。

14 イエズスの柔軟の予言 14 かくてファリザイ人出でて、いかにしてかイエズスを滅ぼさんと計  
15 りおるを、<sup>15</sup>イエズス知りて、ここを去り給いしが、多くの人従いしかば、ことごとく彼らをい

やし、<sup>16</sup>かつ、われを言い表わすことなかれ、と戒め給えり。<sup>17</sup>これ予言者イザヤによりて言われしことの成就せんためなり、<sup>18</sup>いわく「これぞ、わが選みし、わがしもべ、わが心によくかなえる最愛の者なる、われ彼の上に、わが靈を置けり。彼は異邦人<sup>\*</sup>に正義を告げん、<sup>19</sup>争わず、叫ばず、たれも巷に、その声を聞かず、<sup>20</sup>正義を勝利に至らしむるまで、折れたる葦を断たず、けぶれる麻<sup>あさ</sup>を消すことなからん、<sup>21</sup>また異邦人は彼の名を仰ぎ望まん」<sup>7</sup>と。

**ファリザイ人のさん謗**<sup>(マルコ11章14節20~22節30)</sup> <sup>22</sup>時に一人、惡魔につかれてめしい、口おしなる者、差し出だされしを、イエズスいやし給いて、彼もの言い、かつ見るに至りしかば、<sup>23</sup>群衆みな驚きて、これダヴィードの子にあらずや、と言えるを、<sup>24</sup>ファリザイ人聞きて、彼が惡魔を追い払うは、ただ惡魔の頭ベエルゼブ<sup>8</sup>によるのみ、と言えり。<sup>25</sup>イエズス彼らの心を知りてのたまひけるは、すべて分かれ争う國は滅びん、また、すべて分かれ争う町と家とは立たじ。<sup>26</sup>サタン<sup>\*</sup>もしサタンを追い払わば、自ら分かるるなり、さらば、その国いかにしてか立つべき。<sup>27</sup>われ、もしペエルゼブ<sup>9</sup>によりて惡魔を追い払うならば、汝らの子どもは、たれによりて追い払うぞ、されば彼らは汝らの審判者となるべし。<sup>28</sup>されど、われ、もし神の靈によりて惡魔を追い払うならば、神の國は汝らに至れるなり。<sup>29</sup>また人、まず強き者を縛るにあらずんば、いかでか強き者の家に入りて、その家具をかすむることを得ん、「縛りて」のちにこそ、その家をかすむべけれ。

**冒瀆の罪** <sup>30</sup>われにくみせざる人は、われに反し、われとともに集めざる人は散らすなり。<sup>31</sup>ゆえに、われ汝らに告ぐ、すべての罪および冒瀆は人に許されん、されど「聖」靈に対する冒瀆<sup>\*</sup>は許されざるべし。<sup>32</sup>また、すべて人の子に対して「冒瀆の」言葉をほく人は許されん、されど

32 31-30

28 29

26 27

24 25

20 21

18 19

17-16

33 聖靈に對して、これをはく人は、この世、のちの世ともに許されざるべし。33 あるいは木を良しとし、その実をも良しとせよ、あるいは木を惡しとし、その実をも惡しとせよ、木は、その實によりて知らるればなり。34 まむしの末よ、汝ら惡しければ、いかでか良きを言うを得ん、口に語るは心に満てるところより出<sup>10</sup>すればなり。35 良き人は良き倉より良きものを出だし、惡しき人は惡しき倉より惡しきものを出だす。36 われ汝らに告ぐ、すべて人の語りたる無益なる言葉は、審判の日において、これをたださるべし。37 そは汝その言葉によりて義<sup>\*</sup>とせられ、また、その言葉によりて罪せらるべければなり、と。

38 ヨナの印（ルカ11・29～33） 38 その時、数人の律法學士<sup>\*</sup>およびファリザイ人、<sup>\*</sup>彼に答えて言ひけるは、師よ、われら汝のなす印を見んと欲す、と。39 イエズス答えてのたまひけるは、奸惡なる現代は印を求むれども、予言者ヨナ<sup>\*</sup>の印のほかは印を与えられじ。40 すなわちヨナが三日三夜、魚の腹にありしごとく、人の子<sup>\*</sup>も三日三夜<sup>よ</sup>、地の中にあらん。41 ニニヴの人々は、審判の時、現代とともに立ちて、これを罪に定めん、彼らはヨナの説教によりて改心したればなり、見よ、ヨナにまされる者ここにあり。42 南方の女王<sup>（トヨタガ）</sup>は、審判の時、現代とともに立ちて、これを罪に定めん、彼はサロモン<sup>\*</sup>の知恵を聞かんとて地の果<sup>（ハゼ）</sup>より來りたればなり、見よ、サロモンにまされる者ここにあり。

43 惡魔の返報（ルカ11・24～26） 43 汚鬼<sup>（おき）</sup>、人より出でし時、荒れたる所を巡りて休息<sup>（やすみ）</sup>を求むれども得ず、44 ここにおいて、出でしわが家<sup>（いえ）</sup>に帰らんと書いて、來りてその家のすでにあき、掃き清められ飾られたるを見るや、45 すなわち行きて、おのれよりも惡しき七つの惡鬼<sup>（あき）</sup>を携え、ともに入

りて、ここに住む。かくて、かの人の末は、前よりも更に悪しくなりまさる。極悪なる現代もまた、かくのごとくならん、と。

**イエズスの母と兄弟**（マルコ3・31  
ルカ8・19  
マタイ21  
ヨハネ35） 46 イエズスなお群衆に語り給えるおりしも、母と兄弟たちと、彼に物語りせんとて外に立ちければ、47 ある人言ひけるは、見よ、汝の母、兄弟、汝を尋ねて外に立てり、と。48 イエズス、おのれに告げし人に答えてのたまひけるは、たれか、わが母、たれか、わが兄弟なるぞ、と。49 すなわち手を弟子たちの方にのべてのたまひけるは、これぞ、わが母、わが兄弟なる。50 そは、たれにもあれ、天にましますわが父のみ旨むねを行なう人、すなわち、これ、わが兄弟、姉妹、母なればなり、と。

- ① ノベと言う所にあつた旧約の幕屋。サムエル上21・6 ② レビ24・9 ③ 民数紀略28・9、10 ④ ホゼア6・6  
⑤ 申命記22・1、4 ⑥ ラテン訳では置かん。⑦ イザヤ42・1~4 ⑧ ルカ11・23 ⑨ マルコ3・28、ルカ12・10  
⑩ ルカ6・45 ⑪ ヨナ2・4 ⑫ ラテン訳では悔悛。ヨナ3 ⑬ 列王記略上10、歴代史略下9

## 第二款 天国のたどえ

2-1



湖辺

うみべ

の説教

（マルコ4・1  
ルカ8・4）

1

その日

イエズス

家を出でて

湖辺

に坐しい

給えるに、

2

群衆おびただしく、そのもとに集まりしかば、イエズス、小舟に乗りて坐し給い、群衆みな浜に立ちおりしが、3 たどえをもつて、あまたのことを彼らに語りてのたまひけるは、

種まきのたどえ（マルコ4・3  
ルカ8・5  
マタイ9） 種まく人、まきに出でしが、4 まく時、ある種は道ばたに

落ちしかば、空の鳥來りて、これをついばめり。5 ある種は、土少なき石地に落ちしかば、土の

7-6 浅きによりて、ただちに生え出でたれど、6 日出でて焼け、根なきによりて枯れたり。7 ある種  
8 は茨いばらの中に落ちしかば、茨育いばらいくちて、これをふさげり。8 ある種は良き土に落ちて、あるいは百倍、  
9 あるいは六十倍、あるいは三十倍の実を結べり。9 聞く耳を持てる人は聞け、と。

10 たとえの理由(マルコ4・10) 10 弟子たち近づきて、何ぞたとえをもつて彼らに語り給うや、  
11 と言いしかば、11 答えてのたまいけるは、汝らは天国の奥義を知ることを賜わりたれども、彼ら  
12 は賜わらざるなり。12 それ持てる人は、なお与えられて豊かならん、されど持たぬ人は、その持  
13 てるところをも奪われん。13 たとえをもつて彼らに語るは、彼ら見れども見えず、聞けども聞こ  
14 えず、また悟らざるがゆえなり、と。14 かくてイザヤの予言、彼らにおいて成就じょうじゅす、いわく「汝  
15 らは聞きて聞こゆれども見知らざらん。15 そは目に見えず、耳に聞こえ  
16 ず、心に悟らず、立ち帰りて、われにいやされざらんために、この民の心にぶくなりて、その耳  
17 の耳も「幸いなり」、聞くには閉じたればなり」と。16 汝らの目は幸いなり、見ゆればなり、汝ら  
の見るところを見んと欲せしかど見えず、汝らの聞くところを聞かんと欲せしかど聞こえざりき。<sup>3</sup>

18 種まきのたとえの解釈(マルコ4・11-13) 18 されば汝ら種まく人のたとえを聞け、19 すべて人  
19 「天」国の言葉を聞きて悟らざる時は、悪魔來りて、その心にまかれたるものをお奪う、これ道ば  
20 たにまかれたるものなり。20 石地にまかれたるは、言葉を聞きて、ただちに喜び受くれども、21  
おのれに根なく、しばしのみにして、言葉のために患難と迫害と起これば、たちまちにつまずく  
22 ものなり。22 茨の中にまかれたるは、言葉を聞けども、この世の心づかいと宝のまどいと、その

23 言葉をふさぎて実<sup>みの</sup>らずなれるものなり。23 良き土にまかれたるは、言葉を聞いて悟り、実を結びて、あるいは百倍、あるいは六十倍、あるいは三十倍を出だすものなり、と。

**毒麦のたとえ**

24 イエズスまた、ほかのたとえを彼らに持ち出でてのたまいけるは、天国は良き種を、その畑にまきたる人に似たり。25 人々の寝ねたる間に、その敵來りて麦の中に毒麦をまきて去りしが、26 苗育ちて実りたるに、毒麦も現われしかば、27 しもべら近づきて家父に言いけるは、主よ、良き種を畑にまきたるにあらずや、されば毒麦は何によりてか生えたる。28 彼、言いかけるは、敵なる人これをなせり、と。しもべら、われら行きて、これを集めなばいかに、と言ひしに、29 家父言いかけるは、いな、おそらくは汝ら毒麦を集むるに、これとともに麦をも抜かん。30 刈り入れまで二つながら育ておけ、刈り入れの時、われ刈る者に向かいて、まず毒麦を集めて焼くためにこれをたばね、麦をば、わが倉に収めよ、と言わん、と。

**からし種のたとえ**（ルカ13・18、マルコ4・30、31）

31 31 また、ほかのたとえを彼らに持ち出でてのたまいけるは、天国は人の取りて、その畑にまきたるからし種に似たり。32 すべての種のうち最も小さきものなれども、育ちてのちは、すべての野菜より大きくして、空の鳥、その枝に来り住むほどの木となる、と。

**パン種のたとえ**（ルカ13・20、21）

33 33 また、ほかのたとえを彼らに語り給いけるは、天国はパン種に似たり、すなわち女これを取りて三斗<sup>と</sup>の粉の中に隠せば、ことごとくふくるるに至る、と。

**予言せられたるたとえの理由**

34 イエズス、すべてこれらのことと、たとえもて群衆に語り給いしが、たとえなしには語り給うことなかりき。35 これ予言者によりて言われたりしことの成就せ

んためなり。いわく「われたとえを設けて口を開き、世の初めより隠れたることを告げん」と。

36 さて群衆を去らしめ、家に至り給いしに、弟子たち近づきて、畑の毒麦のたとえを、われらに解き給え、と言ひければ、37 答えてのたまひけるは、良き種をまく者は人の子<sup>\*</sup>なり、38 畑は世界なり、良き種は〔天〕國の子どもなり、毒麦は惡魔<sup>6</sup>の子どもなり、39 これをまきし敵は惡魔なり、刈り入れは世の終わりなり、刈る者は〔天〕使たちなり。40 されば毒麦の集められて火に焼かるほどく、この世の終わりにもまた、しからん。41 人の子<sup>\*</sup>、その使たちを遣わし、彼らは、その国より、すべてつまずかする者と悪をなす者とを集めて、42 火のかまどに入れん。そこには嘆きと歯がみとあらん。43 その時、義人たちは父の国にて日のごとく輝かん。聞く耳を持てる人は聞け。

44 隠れたる宝のたとえ 44 天国は畑に隠れたる宝のごとし、見出だせる人は、これを隠しおきて喜びつつ去り、その持ち物をことごとく売りて、その畑を買うなり。

45 真珠のたとえ 45 天国はまた良き真珠を求むる商人のごとし、46 價高き真珠一つを見出だすや、行きて、その持ち物をことごとく売りて、これを買うなり。

47 網引きのたとえ 47 天国はまた海に張りて、いろいろの魚を集むる網のごとし、48 満ちたる時、人これを引き上げ、浜に坐して良き魚を器<sup>うつわ</sup>に入れ、悪しき魚をば捨つるなり。49 世の終わりにおいて、かくのごとくなるべし、すなわち〔天〕使たち出でて、義人のうちより悪人を分かち、50 これを火のかまどに入れん、そこには嘆きと歯がみとあらん。

51 天国のたとえの結末 51 汝ら、このことをみな悟りしか、とのたまえるに、彼ら、しかり、と答

えければ、<sup>52</sup>イエズスのたまいけるは、されば天国のことを使われたる、すべての律法学者は、新しきものと古きものとを、その倉の内より出だす家父に似たり、と。

### 第三款 諸所への旅行、ファリザイ人の憎みいや増す

<sup>52</sup>ナザレトにて輕蔑<sup>けいべつ</sup>せられ給う(マルコ6・1~6) <sup>53</sup>かくてイエズス、このたどえをのたまい終わり、そこを去りて、<sup>54</sup>古里<sup>くるさと</sup>に至り、諸会堂にて教え給えるに、人々感嘆して言ひけるは、彼は、<sup>55</sup>この知恵と奇跡とを、いざこより得たるぞ。彼は職人の子にあらずや、その母はマリアと呼ばれ、<sup>56</sup>その兄弟<sup>\*</sup>ヤコボ、ヨゼフ、シモン、ユダと呼ばれる「者ども」にあらずや、<sup>57</sup>その姉妹<sup>\*</sup>もみな、われらのうちにおるにあらずや。されば、このすべてのことは、いざこより得來りしぞ、<sup>58</sup>と。ついに彼につきてつまづきいたりしに、イエズスのたまいけるは、予言者の敬われざるは、ただその古里、その家においてのみ、と。かくて彼らの不信仰によりて、あまたの奇跡を、そこになし給うことあたわざりき。

①本番25・29 ②イザヤ6・9、10 ③ルカ10・24 ④からしは小アジアでは約三メートル以上も伸びるものである。 ⑤詩編77・2 ⑥天国に至るべき人々のこと。⑦悪人のこと。⑧天使のこと。

<sup>1</sup> 第四章 ヘロデの偏見<sup>(マルコ6・14~16)</sup> 1 そのころ、分国の王ヘロデ、イエズスの噂<sup>うわさ</sup>を聞きて、<sup>2</sup>その臣下に言ひけるは、これ洗者ヨハネなり、死人のうちより、よみがえりたる者なれば、不思議、彼の手に行なわる、と。

3 ヨハネの入獄(マルコ6・17～20) 3 けだしヘロデかつて、その兄弟「ファイリッポ」の妻ヘロデ  
4 イアデのことによりてヨハネを捕え、縛りて監獄に入れたりき。4 そはヨハネ彼に向かいて、汝  
5 が、かのおんな女を持つはよからず、と言いたればなり。5 かくて、これを殺さんと欲せしかども、人  
民の彼を予言者と認めおれるをもつて、これに恐れたりき。

6 ヨハネの斬首(マルコ6・21～29) 6 さてヘロデの誕生日にあたりて、ヘロデイアデの娘、席上  
7 にて踊り、ヘロデの心にかないしかば、7 ヘロデ誓いて、何ものを求むるも、これを与えんと約  
8 せり。8 娘は母に旨ちよを含められて、洗者ヨハネの頭こうべを盆ぼんにのせて、ここにわれに賜え、と言いし  
9 かば、9 王、心に憂うれども、誓いたるがため、かつは列席せる人々のため、ついに、これを与  
10 うことを命じ、10 人を遣わして監獄にヨハネを首はねたり、11 かくて、その頭こうべ、盆にのせられ  
11-10 て娘に与えられしを、娘、母に持ち行きしが、12 ヨハネの弟子たち至り、その屍しきを取りて、これ  
12 を葬り、かつ行きてイエズスに告げたり。

13 イエズス、ペツサイダに退き給う(マルコ9・31、ルカ10・31、ヨハネ6・1) 13 イエズスこれを聞き給いて、小舟に  
14 てそこを去り、寂しき所に避け給いしが、群衆これを聞きて、町々より徒步かあにて従いしかば、14  
出でて群衆のおびただしきを見、これをあわれみて、その病者をいやし給えり。

15 五つのパンをふやし給う(マルコ6・35～44、ルカ9・12～17、ヨハネ6・5～13) 15 日暮れんとする時、弟子たちイエズスに  
16 近づきて言ひけるは、所は寂しく時はすでに過ぎたり。村々に行きて、おのが食物しょくぶつを買わんため  
に、群衆をして去らしめ給え、と。16 イエズス彼らに向かい、人々の行くを任せず、汝ら、これ  
に食しょくを与えよ、とのたまひしかば、17 彼ら答へけるは、われらがここに持てるは五つのパンと二

19-18

つの魚さかなとのみ。18 イエズス彼らにのたまひけるは、そをわれに持ち来れ、と。19 かくて、命じて群衆を草の上にすわらせ、五つのパンと二つの魚さかなとを取り、天を仰ぎて祝し、裂きてそのパンを弟子たちに与え給い、弟子たちまた、これを群衆に与えしかば、20 みな食して飽き足れり。残りを拾いて、くず十二のかごに満ちしが、21 食せし者の数かずは、女と子どもとを除きて五千人なりき。

イエズス水上を歩み給う（マルコ6・45  
ヨハネ14・53）<sup>22</sup> 22 イエズスただちに弟子たちをしいて小舟に乗らしめ、自ら群衆を去らしむる間に、先立ちて湖うみのかなたへ行かしめ給いしが、23 群衆を去らしめてのち、一人祈らんとて山に登り、日暮れて一人そこに居給えり。24 さて小舟は湖うみの真まん中にて逆風よこかぜのため波にただよいてありしが、25 夜の三時よの<sup>2</sup>ごろイエズス湖うみの上を歩みて彼らに至り給いければ、26 彼ら湖うみの上を歩み給うを見て心騒ぎ、化け物ほなりとて恐れ叫べり。27 イエズスただちに言葉を出だして、たのもしかれ、われなるぞ、恐ることなけれ、とのたまひしかば、28 ペトロ答えて言ひけるは、主よ、汝ならば水を踏みて汝に至ることをわれに命じ給え、と。29 イエズス、來れ、とのたまひけるに、ペトロ小舟よりおり、イエズスに至らんとて水の上を歩みおりしが、30 風の強きを見て恐れ、沈まんとせしかば、叫びて、主よ、われを救い給え、と言えり。31 イエズスただちに手をのべ、これを捕えてのたまひけるは、信仰薄き者よ、何ゆえに疑いしそ、と。32 すなわち、ともに小舟に乗りしに、風なぎたり。33 小舟に居合わせし人々近づきて、汝は誠に神の子なり、と言いつつイエズスを礼拝せり。

多くの人いやざる 34 ついに渡りてゲネザルの地に至りしに、35 土地の人々イエズスを認めて、その全地方に人を遣わして、すべての病者をこれに差し出だし、36 その衣服のふさにだも触れん

36 35-34

ことを願いたりしが、触れたる者はことごとくいえたり。

①名はサロメ。 ②原文では第四更とある。

清潔の眞偽 (マルコ7・1～23) 1 時にエルザレムより律法學士\*とファリサイ人と來り、イエズスに近づきて言ひけるは、2 汝の弟子たちは何ゆえに古人の伝えを犯すぞ。けだしパンを食する時に手を洗わざるなり、と。3 答えてのたまひけるは、汝らもまた、おのが伝えのために神の掟おきてを犯すは何ぞや、けだし神のたまわく、4 「父母ちあはを敬え」、また「父あるいは母を呪う人は殺さるべし」と。5 しかるを汝らは言う、たれにても父あるいは母に向かいて、わが獻げ物はみな汝のためならんとだに言ひば、6 その父あるいは母を敬わずして可なりと、かくて汝らは、おのが伝えのために神の掟をむなしくせり。7 偽善者ぎぜんしゃよ、イザヤは汝らにつきて、よく予言して、8 言えらく「この人民はくちびるにて、われを敬えども、その心はわれに遠ざかり、9 人の訓戒を教えて、いたずらに、われを尊ぶなりたうと」と。10 イエズス、群衆を呼び集めてのたまひけるは、11 汝ら聞きて悟れ、12 口に入るものを汚すにあらず、口より出するものこそ人を汚すなれ、と。その時、弟子たち近づきて言ひけるは、ファリサイ人が、この言葉を聞きてつまずけるを知り給うか。13 イエズス答えてのたまひけるは、すべて、わが天父の植え給わざる植え物は抜かるべし。14 汝ら、かの人々をさしあけ、彼らはめしいにしてめしいの手引きなり、めしいもしめしいを手引きせば二人とも穴に陥るべし、と。15 ペトロこれに答えて、このたとえをわれらに解き給え、と言ひしかば、16 イエズスのたまひけるは、汝らもなお知恵なき者なるか、17 すべて口に入るものは腹に至りてかわやに落つと悟らざるか、18 されど口より出するものは心より出でて人を汚す

20-19

なり、19 すなわち、悪しき思い、人殺し、姦淫、私通、盗み、偽証、冒瀆は心より出ず、20 これらこそ人を汚すものなれ、されど手を洗わずして食することは人を汚さざるなり、と。

21 カナアンの女（マルコ7・<sup>24</sup> ~ <sup>30</sup>） 21 イエズスここを去りて、チロとシドンとの地方に避け給いしに、22 おりしもカナアンのある女その地方より出で、叫びて、主よ、ダヴィードの子よ、われをあわれみ給え、わが娘、いたく惡魔<sup>\*</sup>に苦しめらる、と言えるに、23 イエズス一言も答え給わざれば、弟子たち近づきて、かの女<sup>おんな</sup>、われらのあとに叫ぶ、彼を去らしめ給え、と、こえども、24 イエズス答えて、われは、ただイスラエルの家の迷える羊に遣わされしのみ、とのたまえり。25 しかるに女來り礼拝して、主よ、われを助け給え、と言いしに、26 答えて、子どものパンを取りて犬に投げ与うるはよからず、とのたまいしかば、27 女、言いけるは、主よ、しかし、されども小犬もその主人の食卓より落つるぐずを食らうなり、と。28 イエズスついに彼に答えて、ああ女よ、大いなるかな汝の信仰、望めるままに汝になれ、とのたまいかければ、その娘、即時にいえたり。

29 多くの人にいさる（マルコ7・<sup>31</sup> ~ <sup>37</sup>） 29 イエズス、ことを過ぎてガリレアの湖辺に至り、山に登りて坐しい給いければ、30 おびただしき群衆あり、おし、めしい、足なえ、かたわ、そのほか多くの者を携えて彼に近づき、その足もとに放ち置きしに、イエズスこれらをいやし給えり。31 されば群衆は、おしのもの言い、足なえの歩み、めしいの見ゆるを見て感嘆し、光榮をイスラエルの神に帰せり。

32 七つのパンをふやし給う（マルコ8・<sup>1</sup> ~ <sup>9</sup>） 32 時にイエズス、弟子たちを呼び集めてのたまいかけるは、われ「この」群衆をあわれむ、けだし忍びてわれとともにあること、すでに三日にして

食すべきものなし、われ、これを空腹にして去らしむるを好まず、おそらくは、道にて倒れん、  
 と。33弟子たち言ひけるは、さりとて、この荒野にて、かほどの群衆を飽かすべきパンを、われ  
 ら、いざこよりか求め得ん。34イエズスのたまひけるは、汝ら、いくつのパンをか持てる、と。  
 答えて、七つと少しの小魚こぎかなとあり、といしかば、35イエズス命じて群衆を地にすわらせ、36七  
 つのパンとその魚さかなとを取り、謝して裂き、弟子たちに与え給い、弟子たちこれを人民に与え、37  
 みな食して飽き足れり。残りのぐずを拾いて七つのかごに満ちしが、38食せし者は女と子どもと  
 を除きて四千人なりき。39イエズス群衆を去らしめ、小舟に乗りてマゲダンの地方に至り給えり。

①出エジプト記20・12 ②出エジプト記21・16 ③イザヤ29・13 ④ルカ6・39

**第十一章** 天よりの印（マルコ8・11～13） 1ファリザイ人とサドカイ人と、イエズスを試みんと  
 て近づき、天よりの印を示されんことをといしかば、2答えてのたまひけるは、汝ら夕暮には空  
 赤ければ晴天ならんと言ひ、3朝には空曇りて赤味あれば、今日、嵐あらんと<sup>1</sup>言う。4されば空  
 のけしきを見分くことを知りて、時の印を知ることを得ざるか。奸惡なる現代は印を求むれど  
 も、予言者ヨナの印<sup>2</sup>のほかには印を与えられじ、と。ついに彼らを離れて去り給えり。

フアリザイ人のパン種（マルコ8・14～21） 5弟子たち湖うみのかなたに至りしに、パンを携うること  
 6を忘れたり。6イエズス彼らに向かい、慎しみて、フアリザイ人、サドカイ人のパン種に用心せ  
 よ、とのたまいしかば、7彼ら案じ合ひて、われらがパンを携えざりしゆえならん、と言えるを、  
 8イエズス悟りてのたまひけるは、信仰薄き者よ、何ぞパンを持たぬことを案じ合える。9いま  
 だ悟らざるか、五つのパンを五千人に分かちて、なお幾かごを拾い、10また七つのパンを四千人

11 に分かちて、なお幾かごを拾いしを記憶せざるか。11 フアリザイ人、サドカイ人のパン種に用心  
12 せよと汝らに言いしは、パンのことにあらざるもの有何ぞ悟らざる、と。12 ここにおいて彼ら、  
イエズスの用心すべしとのたまいしはパンの種にあらずして、フアリザイ人、サドカイ人の教え  
なることを悟れり。

#### 第四款 ガリレアにおけるイエズス布教の盛時

13 ペトロの宣言（マルコ 9・18<sup>27</sup> ~ 20<sup>30</sup>） 13 イエズス、フイリッポのカイザリア地方に至り、弟子たち  
14 に聞いて、人々は人の子をたれなりと言うか、とのたまいしかば、14 彼ら言ひけるは、ある人は  
洗者ヨハネなりと言ひ、ある人はエリアなりと言ひ、ある人はエレミアもしくは予言者の一人な  
り「と言う」、と。15 イエズス、彼らにのたまひけるは、しかるに汝らは、われを、たれなりと  
16 言うか、16 シモン・ペトロ答へて、汝は生ける神の子キリストなり、と言ひしに、17 イエズス答  
えてのたまひけるは、汝は幸いなり、ヨナの子シモン、そは、これを汝に示したるは、<sup>けつだく</sup>血肉にあ  
らすして、天にましますわが父なればなり。18 われもまた汝に告ぐ、汝はペトロ<sup>7</sup>なり、われこの  
岩<sup>7</sup>の上に、わが教会を建てん、かくて地獄の門、これに勝たざるべし。19 われ、なお天国の鍵を  
汝に与えん、すべて汝が地上にてつながんところは天にてもつながるべし、また、すべて汝が地  
上にて解かんところは天にても解かるべし。<sup>13</sup> 20さて、わがイエズス・キリストたることを、たれ  
にも語ることなけれ、と弟子たちを戒め給えり。<sup>14</sup>

21 イエズス、おのが死去を予言し給う（マルコ<sup>8・31</sup><sub>33</sub>ルカ<sup>9・22</sup><sub>31</sub>） 21 この時よりイエズス、おのれのエルザ  
レムに行きて、長老<sup>34</sup>、律法學士、司祭長らより多くの苦しみを受け、しかして殺され、しかして  
三日目によみがえるべきことを弟子たちに示し始め給いしかば、22 ペトロ、イエズスを呼びのけ  
て、いさめ出でて言ひけるは、主よ、しからざるべし、このこと御身の上にあるまじ、と。23 イ  
エズス顧みてペトロにのたまひけるは、サタン<sup>\*</sup>よ退け、汝われをつまずかせんとす、そは汝が味  
わえるは神のことがあらずして人のことなればなり、と。

24 おのれを捨てべし（本書<sup>10</sup><sub>39</sub>、マルコ<sup>8・38</sup><sub>38</sub>、ルカ<sup>9・23</sup><sub>27</sub>、ヨハネ<sup>16</sup><sub>34</sub>） 24 時にイエズス、弟子たちにのたまひけるは、  
人もし、わがあとにつきて来らんと欲せば、おのれを捨て、おのが十字架を取りて、われに従う  
べし、25 そは、おのが魂<sup>15</sup>を救わんと欲する人は、これを失い、わがために魂を失う人は、これを  
得べければなり。26 人、全世界をもうくとも、もしその魂を失わば何の益かあらん、また人、何  
ものをもってか、その魂に代えん。27 けだし人の子<sup>\*</sup>は、その父の光榮のうちに、その使たちとと  
もに来らん、その時、人ごとに、その行ないに従いて報ゆべし。28 われ誠に汝らに告ぐ、ここに  
立てる者のうち、人の子<sup>\*</sup>が、その國をもって来るを見るまで数人あり、と。

- ① ルカ<sup>12・54</sup> ② ヨナ<sup>2・1</sup> ③ ルカ<sup>11・29</sup> ④ ルカ<sup>12・1</sup> ⑤ 本書<sup>14・15</sup><sub>21</sub>、ヨハネ<sup>6・9</sup><sub>13</sub> ⑥ 本書<sup>15</sup><sub>17</sub>
- 34 ⑦ 原語ではペトロと岩とは同一の語である。⑧ 悪魔の勢力の意。⑨ あるいは彼に。⑩ 全權を委任するの意。  
默示録<sup>1・18</sup>、<sup>3・7</sup>⑪ つなぐとは事に規定を設けること。⑫ 解くとは許すことの形容。⑬ ヨハネ<sup>20・23</sup> ⑭ マ  
ルコ<sup>8・30</sup>、ルカ<sup>9・21</sup> ⑮ 魂は、靈魂、生命、財産などの意をかねる言葉。⑯ ルカ<sup>17・33</sup>、ヨハネ<sup>12・25</sup> ⑰ マ  
ルコ<sup>8・39</sup>、ルカ<sup>9・27</sup>



2 の兄弟ヨハネとを、別に、高き山に連れ行き給いしに、2彼らの前にて御形<sup>おんかたち</sup>變わり、御顔は日の  
 3 ごとく輝き、その衣服は雪のごとく白くなれり。3おりしもモイゼ<sup>\*</sup>とエリア<sup>\*</sup>と彼らに現われてイ  
 4 エズスと語りおりしが、4ペトロ答えてイエズスに言ひけるは、主よ、よきかな、われらがこと  
 にあること。おぼしめしならば、ここに三つのいほりを作り、一つは汝のため、一つはモイゼの  
 5 ため、一つはエリアのためにせん、と。5彼なお語れるに、おりしも輝ける雲、彼らをおおい、  
 雲より声してのたまわく、「これぞ、よく、わが心を安んぜる、わが愛子なる、これに聞け」<sup>2</sup>、  
 6 弟子たち聞きつつ倒れ伏し、恐ること、はなはだしかりき。7イエズス近づきて彼らに  
 7-6 触れ、起きよ、恐ることなけれ、とのたまいしかば、8彼ら目をあげしに、イエズスのほか、  
 8 たれをも見ざりき。

9 **エリアの出来**<sup>(マルコ9・10<sup>1</sup> ~ 12<sup>2</sup>)</sup> 9彼らが山をくだる時、イエズスこれに戒めて、人の子<sup>\*</sup>、死  
 10 人のうちよりよみがえるまでは、汝らが見しことをたれにも語ることなけれ、とのたまいしに、  
 11 弟子たち聞いて言ひけるは、さらばエリア先に来るべし、と、律法學士らの言えるは何ぞや。  
 12 答えてのたまいけるは、げにエリアは來りて万事を改むべし。12ただし、われ汝らに告ぐ、エ  
 リアは、すでに来れり、されど人々これを知らず、しかも、ほしいままにあしらえり。かくのど  
 13 とく、人の子もまた彼らより苦しみを受けんとす、と。13ここにおいて弟子たち、これ洗者ヨハ  
 ネをさしてのたまいしものなることを悟れり。

14 **惡魔つきいやさる**<sup>(マルコ9・13<sup>1</sup> ~ 14<sup>2</sup>)</sup> 14イエズス、群衆の所に來り給いしに、ある人、これに  
 近づき、前にひざまずきて言ひけるは、主よ、わが子をあわれみ給え、でんかんにて、しばしば

15 火の中に倒れ、苦しむこと、はなはだし、15これを汝の弟子たちに差し出だしたれど、彼らは、  
 いやすことあたわざりき、と。16イエズス答えて、ああ不信邪惡きじやくの代なるかな。われ、いつまで  
 汝らとともにおらんや、いつまで汝らを忍ばんや。彼をわれに携え来れ、とのたまいて、17悪魔  
 を戒め給いしかば、悪魔出でて、子は即時にいえたり。18時に弟子たち、ひそかにイエズスに近  
 づきて、われらが、これを追い出だすあたわざりしは何ゆえぞ、と言いしに、19イエズスのたま  
 いけるは、汝らの不信仰によれり。われ誠に汝らに告ぐ、汝ら、もしからし種ほどの信仰だにあ  
 らば、この山に向かいて、ここよりかしこに移れ、と言わんに山移らん、かくて汝らにあたわざ  
 ることなからん。20されど、この類たぐいは、祈祷きとうと断食だんじきとによらざれば追い出だされざるなり、と。  
 更に受難を予言し給う（本書20章、ルカ9章） 21弟子たちガリレアにおれるに、イエズスのたま  
 いけるは、人の子\*は人々の手に渡されんとす、22彼らは、これを殺すべく、かくて三日目によみ  
 がえるべし、と。弟子たち憂うこと、はなはだしかりき。

魚の口の銀貨 23彼らカファルナウムに來りし時、二ドラクマ銀貨を取り立つる人々、ペトロ  
 24に近づき、汝らの師は、二ドラクマ銀貨を納めざるか、と言いかば、ペトロ、24納む、と言い  
 しが、やがて家に入りしに、イエズス先立ちて、これにのたまひけるは、シモンよ、汝、いかに  
 思うぞ、世の帝王は、みつきまたは税を、たれより取るぞ、おのが子どもよりか、他人よりか、  
 と。25ペトロ、他人より取るなり、と言いしに、イエズスのたまひけるは、さらば子どもは自由  
 26なり。26されど彼らをつまずかせざるために、汝、湖うみに行きて釣つるをたれよ、さて初めに上がる魚うお<sup>5</sup>  
 を取りて、その口を開かば、スタテル銀貨を得べし、これを取りて、われと汝とのために彼らに

納めよ、と。

①ものを言つての意。 ②ペトロ後書1・17、本書3・17 ③ルカ17・6 ④およそ八十せんに当たる銀貨。出エジプト記30・13に従つて、二十才以上の人は必ずこれを宗教費として納めることになつてゐた。 ⑤スタテルは四ドラクマ、すなわち一円六十せんに当たる銀貨。

**天国にて大いなる者**(マルコ9・32  
ルカ9・46  
マクルカ17・36) 1その時、弟子たちイエズスに近づきて言いけるは、天国にて大いなる者は、たれなりと思ひ給うか、と。2イエズス一人の幼子おさなこを呼び寄せ、3彼らの真中に立たせて、3のたまひけるは、われ誠に汝らに告ぐ、汝ら、もし翻りて幼子のごとくにならば、天国に入らざるべし、4されば、すべてこの幼子のごとく、自らへりくだる人は天国にて大いなる者なり、5また、わが名のために、かくのごとき一人の幼子を受くる人は、われを受くる者なり。

**つまづきのこと**(マルコ9・46  
ルカ17・41) 6されど、われを信する、このいと小さき者の一人をつまづかする人は、ろばのひきうすを首にかけられ、海の深みに沈めらるること彼に益あるなれ。7つまづきあるがために世は禍いなるかな。つまづきは来らざるを得ざれども、つまづきを来す人は禍いなるかな。8さればもし汝の手あるいは足、汝をつまづかすならば、これを切りて捨てよ、片手あるいは片足にて生命に入るは、両手あるいは両足ありて永遠の火に投げ入れらるるより、汝にとりてまされり。9また、もし汝の目、汝をつまづかすならば、これをくじりて捨てよ、片目にて生命に入るは、両眼ありて地獄の火に投げ入れらるるより、汝にとりてまされり。10小さき者を軽んずべからず汝ら慎みて、このいと小さき者の一人をも軽んずることなか

れ、われ汝らに告ぐ、彼らの〔天〕使たち天にありて、天にましますわが父の御顔を常に見るなり。11けだし人の子は、失せたる者を救わんとて来れり。

12失せたる羊のたどえ（ルカ15・1～7）12汝ら、これを何とか思える、百頭<sup>ひゃくとう</sup>の羊を持てる者、もし、その一頭を失わば、九十九頭を山にさしおき、行きて、その迷えるものを尋ねるにあらずや。13さて、これを見出だすに至らば、われ誠に汝らに告ぐ、迷わざる九十九頭の羊の上よりも、なお、この一頭の上を喜ぶなり。14かくのごとく、このいと小さき者の一人にても、その滅ぶるは、天にまします汝らの父のみ旨<sup>むね</sup>にあらざるなり。

15相互いの説諭<sup>せつゆう</sup> 15もし汝の兄弟、汝に罪を犯さば、行きて汝と彼と相対して彼をいさめよ、もし汝に聞きなば、汝、兄弟を得たるべし。16汝に聞かずば、二三の証人の口によりて事のすべて定まらんために、一二人を伴え、<sup>1</sup>17もし、これらに聞かずば、教会に告げよ、教会にも聞かずば、汝にとりて異邦人<sup>\*</sup>、税吏<sup>みつぎとし</sup>のごとき者と見なすべし。<sup>2</sup>18われ誠に汝らに告ぐ、すべて汝らが地上にてつながんところは、天にてもつながるべし、また、すべて汝らが地上にて解かんところは、天にても解かるべし。<sup>4</sup>19われ更に汝らに告ぐ、もし汝らのうち二人、地上にて同意せば、何ごとを願うとも、天にましますわが父より賜わるべし。20けだし、わが名をもつて二三人相集まれる所には、われ、その中にあり、と。

21幾たび許すべきか 21時にペトロ、イエズスに近づきて言ひけるは、主よ、わが兄弟の、われに罪を犯すを、幾たびか許すべき、七たびまでか。<sup>5</sup>22イエズスのたまひけるは、われ汝に七たびまでとは言わず、七たびを七十倍するまでせよ。<sup>6</sup>

**負債ある臣下のたとえ** 23 されば天国は、その臣下に会計せしめんとせる王のごとし。24 会計を始めしに、王に一万タレンントの負債ある者差し出だされしが、25 返すすべなきままに、主君は彼と、その妻子と、すべての持ち物とを売りて返すことを命ぜり。26 しかるに、その臣下平伏して願いけるは、しばらく、われを忍容し給え、われ、ことごとく返済せん、と。27 主君その臣下をあわれみて、これを許し、その負債をも許せり。28 さて、かの臣下出でて、おのれに百デナリオの負債ある一人の同僚に会いしかば、負債を返せ、と言いつつ捕えてそののどを絞むるに、29 同僚平伏して、しばらく、われを忍容し給え、われ、ことごとく返済せん、と願えども、30 彼がえんぜずして去り、負債を返すまでこれを監獄に入れたり。31 同僚らは、その顛末を見て、いたく憂い、32 来りて事の次第をことごとく主君に語りしかば、32 主君、彼を召して言いけるは、汝、兇惡の臣、33 汝の願いによりて、われ、ことごとく負債を汝に許せり、33 されば、わが汝をあわれみしどぐ汝もまた同僚をあわれむべかりしにあらずや、と。34 かくて主君怒りて、負債をことごとく返すまで彼を刑吏に渡せり。35 汝ら、もし、おのおの心より、おのが兄弟を許さずば、わが天父もまた、汝らにかくのことくなし給うべし。

① 申命記 19・15 ② テサロニケ後書 3・14、コリント前書 5・13 ③ 本暦 16・19を見よ。④ ヨハネ 20・23 ⑤ ルカ 17・4 ⑥ あるいは七十七たび。⑦ 数千万円。一タレンントは、およそ一千四百円に当たる。⑧ オヨモ三十円。一デナリオは、およそ三十せんに当たる。

## 第四項 イエズス、エルザレムへの最後の旅行

イエズス、ガリレアを去り給う（マルコ10・1） 1 これらの物語を終わりて、イエズス  
ついにガリレアを去り、ヨルダン〔川〕の向かいなるユデアの境<sup>きょう</sup>に至り給いしが、2 群衆おびた  
だしくこれに従いければ、そこにて彼らをいやし給えり。

婚姻につきて（マルコ10・2～12） 3 ファリザイ人<sup>\*</sup>近づきて、彼を試みて言ひけるは、いかなる  
理由のもとにも、人は、その妻を出だすを得べきか。4 イエズス答えてのたまひけるは、汝ら読  
まざりしか、すなわち初めに人を造り給いしもの、これを男女に造りてのたまわく、5 「このゆえ  
に、人は父母<sup>おやしは</sup>を離れて、その妻につき兩人一体となるべし」と、6 されば、すでに二人にあらず  
して一体なり、ゆえに神の合わせ給いしもの、人これを分かつべからず、と。7 ファリザイ人言  
ひけるは、しからば離縁<sup>りえん</sup>状<sup>じょう</sup>を与えて妻を出だすべし、とモイゼの命ぜしは何ぞや。8 答えてのた  
まいけるは、モイゼは汝らの心のかたくなるがために、妻を出だすことを汝らに許したれど、  
初めより、さはあらざりき。9 すなわち、われ汝方に告ぐ、すべて私通<sup>しふう</sup>のゆえならで、その妻を  
出だし、ほかの女をめとる人は姦淫<sup>かんぎん</sup>するなり、また出だされたる女をめとる人も姦淫するなり、  
と。

独身につきて 10 弟子たちイエズスに向かい、もし人の妻におけること、かくのごとくば、め  
とらざるにしかず、と言ひしかば、11 イエズスのたまひけるは、人々な、この言葉を受け入るる  
にはあらず、「受け入るるは」賜わりたる者のみ。12 すなわち母の胎内より生まれながらの闇者<sup>えんじや</sup>  
あり、人よりせられたる闇者あり、また天国のために自らなせる闇者<sup>えんじや</sup>あるなり。受け入るるを得  
る人は受け入るべしと。

13 幼子おさなごを祝し給う(マルコ 18:10. 15-13. 17-16) 13 時に按手あんじゅして祈られんがため、幼子らイエズスに差し出だされしが、弟子たち、これを拒みければ、14 イエズス彼らにのたまひけるは、幼子らを許せ、その、われに来るを禁ずることなかれ、天国は、かくのごとき人のためなればなり、と。15 かくて彼らに按手あんじゅし給い、さて、ここを去り給えり。

14 師きよ、われ永遠の生命を得んには、いかなる良きことをかなすべき。17 イエズスのたまひけるは、何ぞ良きを、われに問うや、良き者は一人のみ、すなわち神なり。ただし汝もし生命に入らんと欲せば捷きを守れ、と。18 彼、いづれ「の捷」ぞや、と言ひしに、イエズスのたまひけるは、汝、人を殺すなれ、姦淫かんいんするなれ、盗みするなれ、偽証ぎしよするなれ、汝の父母ちちははを敬え、また汝の近き者を、おのれのごとく愛せよ、と。20 青年言ひけるは、これみな、わが幼年より守りしころ、なお、われに欠けたるは何ぞや。21 イエズスのたまひけるは、汝もし完全ならんと欲せば、行きて持てる物を売り、これを貧者に施せ、しかば天において宝を得ん、しかして來りてわれに従え、と。22 この言葉を聞くや青年憂いて去れり、これ多くの財産を持つてゐる者なればなり。**富の危険**(マルコ 13:23-27) 23 イエズス、弟子たちにのたまひけるは、われ誠に汝らに告ぐ、富者は天国に入りがたし、24 また汝らに告ぐ、らくだが針の穴を通るは、富者の天国に入るよりもやすし、と。25 弟子たち聞きて、はなはだ怪しみ、しかば、たれか救わるを得ん、と言ひければ、26 イエズス、彼らを見つめつつのたまひけるは、これ人においては、あたわざるところなれども、神においては何ごともあたわざるところなし、と。

イエズスのために、いつさいを捨つる人の報酬(マルコ18:10-28)(ルカ18:28-31) 27その時、ペトロ答えて言  
いけるは、さて、われらはいつさいを捨てて汝に従えり、されば何を得べきぞ、と。28イエズス  
彼らにのたまいけるは、われ誠に汝らに告ぐ、われに従いたる汝らは、世改まりて人の子\*その光  
榮の座に坐せん時、汝らも十二の座に坐してイスラエルの十二族\*を裁くべし。29また、すべてわ  
が名のために、あるいは家、あるいは兄弟、あるいは姉妹、あるいは父、あるいは母、あるいは妻、  
あるいは子ども、あるいは田畠たはたを離るる人は百倍を受け、かつ永遠の生命を得べし。30ただ  
し多く、先なる人はあとになり、あとなる人は先にならん。

①創世記1・27 ②創世記2・24、コリント前書6・16 ③申命記24・1 ④ルカ16・18、エフェソ書5・31、コリ  
ント前書7・10 ⑤ここに言つておられるのは実際の闇者ではない。神に対して闇者のように自ら淫慾を固く絶つ者

のことである。

ぶどう畠の雇い人のたとえ 1 天国は、あたかも家父、朝早く出でて、そのぶどう畠  
のために働く者を雇うがごとし。2 彼、働く者に一日一デナリオの約束をなして、これをぶどう  
畠に遣わしが、3 また九時2ごろ出でて、むなしく市場に立てる他の人々を見て、4 汝らも、わ  
がぶどう畠に行け、正当のものを与えん、と言ひければ、彼ら、すなわち行けり。5 さて十二時  
と三時3ごろと出でて、また同じようになしが、6 五時4ごろ、また出でて、他の立てる人々に会  
いて、何ぞ終日むなしくここに立てる、と言いしに、7 彼ら、雇う人なきゆえなり、と言ひしか  
ば、彼、汝らも、わがぶどう畠に行け、と言えり。8 かかるに日没に至りて、ぶどう畠の主、そ  
の会計役に向かい、働く者を呼びて、あとの者より始め、先の者に至るまで賃金を与えよ、と言

いしかば、<sup>9</sup> 五時<sup>4</sup> ごろ來りし者至りて、おののおの一デナリオを受けたり。<sup>10</sup> 先の者もまた來りて、われらは多く受くるならんと思ひしに、同じく、おののおの一デナリオを受けたれば、<sup>11</sup> これを受け取りつつ家父<sup>かふ</sup>に向かいてつぶやき、<sup>12</sup> かの人々は一時働きしのみなるに、汝は終日<sup>しゅうじつ</sup>の労苦と暑<sup>じょ</sup>氣とを忍びしわれらと等しく、これをおしらえり、と言ひければ、<sup>13</sup> 家父その一人に答えて、友よ、われ汝に不義をなすにあらず、汝は一デナリオにて、われに約せしにあらずや、<sup>14</sup> 汝の分を取りて行け。われは、このあとの者にもまた汝と等しく与えんと欲す。<sup>15</sup> そもそも、また、わが欲するところをなすは、よからざるか、わがよければとて汝の目悪しきか、と言ひしが、<sup>16</sup> かくのごとく、あとの人は先になり、先の人はあとにならん。<sup>5</sup> それ召されたる人は多けれども、選まる人は少なし、と。

また受難の予言（マルコ18:10・31~32）

<sup>17</sup> イエズス、エルザレムにのぼり給うに、ひそかに十二人の弟子を呼び寄せてのたまひけるは、<sup>18</sup> 今や、われらエルザレムにのぼる、さて人の子<sup>\*</sup>は司祭長<sup>\*</sup>、律法學士<sup>\*</sup>らに渡されん、彼らは、これを死罪<sup>しぎ</sup>に処し、<sup>19</sup> また異邦人に渡してなぶらしめ、かつむち打たしめ、かつ十字架につけしめん、かくて三日目に、よみがえるべし、と。

セベデオの子らの願い（マルコ10・35~40）<sup>20</sup> 時にゼベデオの子らの母<sup>6</sup>、その子らとともにイエズスに近づき、礼拝して何ごとをか願わんとしければ、<sup>21</sup> イエズス、何を望むか、とのたまひしに彼、言ひけるは、このわが二人の子を、み国において、一人は汝の右に、一人は左に坐すべく命じ給え。<sup>22</sup> イエズス答えてのたまひけるは、汝らは願うところを知らず、汝ら、わが飲まんとする杯<sup>さかずき</sup>を飲み得るか、と。彼ら、得るなり、と言ひしかば、<sup>23</sup> イエズス彼らにのたまひけるは、汝

ら實に、わが杯を飲まん、されど、わが右左に坐するは、わが汝らに与うべきにあらず、わが父より備えられたる人々にこそ与うべきなれ、と。

24 また謙遜を教え給う（マルコ10・41～45）<sup>24</sup> かくて十人の弟子これを聞きて、一人の兄弟を憤りければ、<sup>25</sup> イエズス、彼らを呼び寄せてのたまひけるは、異邦人の君主が人をつかさどり、大いなる者、人の上に權をふるうは汝らの知るところなり。<sup>26</sup> 汝らのうちにには、しかあるべからず、汝らのうちに大いならんと欲する人は、<sup>27</sup> かえつて汝らのしもべとなるべし。<sup>28</sup> また汝らのうちに第一の者たらんと欲する人は、汝らの奴隸となるべし。<sup>29</sup> これ、あたかも人の子の来れるは、仕えらるるためにあらずして、かえつて仕えんため、かつ衆人の贖いとして生命を捨てんためなるがごとし。

29 エリコのめしいいやざる（マルコ10・35～46）<sup>29</sup> 一行、エリコを出づる時、群衆おびただしくイエズスに従いしが、<sup>30</sup> おりしも道ばたに坐せる二人のめしい、イエズスの過ぎ給うを聞き、主よ、ダヴィドの子よ、われらをあわれみ給え、と叫びければ、<sup>31</sup> 群衆彼らを拒みて黙せしめんとすれども、彼らますます叫びて、主よ、ダヴィドの子よ、われらをあわれみ給え、と言いおれり。<sup>32</sup> イエズス立ち留まり、彼らを呼びてのたまひけるは、わが汝らに何をなさんことを欲するか、と。<sup>33</sup> 彼ら、主よ、われらが目の開かれんことを、と言ひしに、<sup>34</sup> イエズス彼らをあわれみて、その目に触れ給いしかば、彼らの目たちまち見えてイエズスに従えり。

① デナリオは、およそ三十せんに当たる銀貨。 ② 原文には三時。 ③ 原文には六時と九時。 ④ 原文には十一時。 ⑤ 本書19・30、マルコ10・31、ルカ13・30 ⑥ 名はサロメ。 ⑦ 困難をなめることの形容。 ⑧ ルカ22・25

## 第三編 イエズスの最後の週間

### 第一項 イエズス、エルザレムに歓迎せられ給う



#### 歓迎の予備(マルコ19章29節)

1 イエズスの一行エルザレムに近づき、かんらん山<sup>さん</sup>\*の麓<sup>もと</sup>なるベトファゲに至りし時、イエズス、一人の弟子を遣わさんとして、2 のたまいけるは、汝<sup>な</sup>ら向かいの村に行け、さらば、ただちにつなげる牝<sup>め</sup>ろばの、その子とともにおるに会わん、それを解きて、われに引き来れ。3 もし人ありて、汝<sup>な</sup>らにもの言わば、主これを要すと言え、さらばただちに許すべし、と。4 すべて、このことのなれるは、予言者によりて言われしことの成就<sup>じょうじゅ</sup>せんためなり、5 いわく、「シオン<sup>\*</sup>の娘に言え、見よ汝の王、柔和にして牝<sup>め</sup>ろばと、その子なる小ろばとに乗りて汝に来る」と。

歓迎 6 弟子たち行きてイエズスの命じ給いしごとくなし、7 牝<sup>め</sup>ろばと、その子とを引き來り、おのが衣服をその上に敷き、イエズスをこれに乗せたるに、8 群衆おびただしく、おのが衣服を道に敷き、ある人々は木の枝を切りて道に敷きたり。9 先に立ち、あとに従える群衆、呼ばわりて、ダヴィードの子にホザンナ<sup>3</sup>。主の名によりて来る者は祝せられ給え。いと高き所までホザンナ、と言いおれり。10 かくてイエズス、エルザレムに入り給いしに、こは、そもたれなるぞ、と、町ござりてどよめきけるが、11 人民は、これガリレアのナザレトより出でたる予言者イエズスなり、と言いおれり。

## 第二項 エルザレムにおけるイエズスの所業

しょぎょう

商人あきうど、神殿より追い出ださる(マルコ11:12-15) 12 イエズス、神殿に入り給いて、殿内にて売り買りする人を、ことごとく追い出だし、両替屋りょうがえやの机と鳩売る人々の腰かけとを倒して、13 彼らにのたまいけるは、書きしるして「わが家は祈りの家ととなえらるべし<sup>4</sup>」とあるに、汝らは、これを強盜こうとうの巣窟そうくつとなせり、と。14 かくてめしい、足なえら、神殿にてイエズスに近づきしかば、これらをいやし給えり。

司祭長らの憤懣きんまん 15 しかるに司祭長\*、律法學士ら、イエズスのなし給える奇跡と、ダヴィドの子にホザンナと殿内に呼ばわる子どもとを見て憤り、16 彼に向かいて言いけるは、汝、彼らの言うところを聞くや、と。イエズス、これにのたまいけるは、しかし「おさき幼子おさきと乳飲み児ちのことの口に贊美を全うし給えり<sup>5</sup>」とあるを、汝らかつて読まざりしか、と。17 かくて彼らを離れ、町を出でてベタニアに行き、そこに宿り給えり<sup>6</sup>。

いちじくの木、枯る(マルコ11:12-24) 18 明くる朝、町に帰る時飢え給いしが、19 道ばたに一本のいちじくの木を見て、そのもとに至り給いしに、葉のほかに何ものをも見ざりしかば、これに向かいて、汝いつまでも実らざれ、とのたまいしに、いちじくの木たちまち枯れたり。20 弟子たち見て感嘆し、いかにして、速かに枯れたるぞ、と言いしに、21 イエズス答えてのたmaiけるは、われ誠に汝らに告ぐ、汝ら、もし信仰ありて躊躇ちうちょせずば、ただに、これをいちじくの木になすべ

きのみならず、たとい、この山に向かいて、汝、自ら抜けて海に入れ、と言うとも、またしかな  
らん。22 すべて祈りのうちに信じて求むることは、汝ら、ことごとくこれを受けん、と。

23 イエズスの權の原因（マルコ21：1<sup>27</sup>～8<sup>33</sup>） 23 イエズス、神殿に至りて教えつつい給いけるに、司  
祭長\*および民間の長老\*ら近づきて言いけるは、汝、何の權をもつて、これらのこととなすぞ、ま  
た、たれかこの權を汝に与えしぞ。24 イエズス答えてのたまいけるは、われも一言汝らに問わん、  
汝ら、これを語らば、われもまた何の權をもつて、これを行なうかを汝らに告げん。25 ヨハネの  
洗礼は、いざこよりなりしそ、天よりか、はた人よりか、と。彼ら相ともにおもんばかりて、  
もし天よりと言わば、何ゆえに彼を信せざりしかと言わるべく、もし人よりと言わば、人みなヨ  
ハネを予言者とせるをもつて民衆にはばかりありとし、27 ついにイエズスに答えて、われら、こ  
れを知らず、と言いしかば、イエズスまたのたまいけるは、われも何の權をもつて、これらのこ  
とを行なうかを汝らに告げず。

28 二人の息子のたどえ 28 汝ら、これをいかに思うぞ。ある人、二人の子ありしが、長男に近づ  
きて、子よ、今日わがぶどう畑に行きて働く、と言いけるに、29 彼答えて、いな、と言いしも、つ  
いに後悔して行きたり。30 また次男に近づきて同じように言いけるに、彼答えて、父よ、われ行  
く、と言いしも、ついに行かざりき。31 この二人のうち、いすれか父の旨をなしたるぞ、と。彼  
ら、長男なり、と言いしかば、イエズスのたまいけるは、われ誠に汝らに告ぐ、税吏と遊び女と  
は、汝らよりも先に神の国に入らん。32 そはヨハネ、義の道をもつて汝らに來りしに、汝ら彼を  
信せず、税吏と遊び女とは、かえつて彼を信じたりしを、汝ら、これを見てもなお後悔せず、つ

いに彼を信せざりければなり。

33 ぶどう烟の小作人のたとえ（マルコ20章12節～13節）<sup>18</sup> 33 また一つのたとえを聞け、ある家父、ぶどう烟を作りて垣をめぐらし、中に酒ぶねを掘り、物見台を建て、これを小作人らに貸して遠方へ旅立ちしが、34 実り時近づきしかば、その実を受け取らせんとて、しもべらを小作人のもとに遣わししに、35 小作人、そのしもべを捕えて、一人を打ち、一人を殺し、一人に石を投げつけたり。36 更に、ほかのしもべらを、先よりも多く遣わししに、彼ら、これをも同じようにあしらえり。

37 ついに、わが子をば敬うならんとて、その子を遣わししに、38 小作人この子を見て語り合ひけるは、これ相続人なり、来れかし、これを殺さん、しかしてわれらその家督を得ん、と。39 かくして、その子を捕え、ぶどう烟より追い出だして殺せり。40 さればぶどう烟の主來らん時、この小作人らを、いかに処置すべきか。41 彼ら言ひけるは、悪人を容赦なく滅ぼし、季節に実を納むるほかの小作人に、そのぶどう烟を貸さん。42 イエズス、彼らにのたまひけるは、汝ら、かつて聖書において読まさりしか、「家を建つるに捨てられたる石は、隅の親石となれり、これ主のなし給えることにて、われらの目には不思議なり」<sup>7</sup> とあり。43 されば、われ汝らに告ぐ、神の国は汝らより奪われ、その実を結ぶ人民に与えらるべし。44 およそ、この石の上に落つる人は、砕けん、また、この石、たれの上に落つるも、これを微塵にせん、と。<sup>8</sup> 45 司祭長、ファリザイら人イエズスのたとえを聞きて、その、おのれらをさしてのたまえるを悟り、46 これを捕えんと計りしが、群衆、彼を予言者とせるをもって、これを恐れたり。

① イザヤ62章11節、ザカリア9章9節

② あるいはイエズスこれに乗り。

③ ホザンナは歓迎の声、助け給えの意。

④イザヤ56・7、エレミア7・11 ⑤詩編8・3 ⑥あるいは一泊し給えり。⑦詩編117・22、23 ⑧ダニエル2・34、35



### 王の婚宴のたとえ

3-2 1  
**2**天国は、あたかもその子のために婚宴を開ける王のごとし。**3**彼、婚宴に招きたる人々を呼ばんとて、しもべらを遣わしたるに、彼ら、あえて来らざれば、**4**また、ほかのしもべらを遣わすとて言ひけるは、招きたる人々に告げて、見よ、われすでに、わが饗宴の準備をなせり、わが牛と肥えたる獸けものとほふられて、ことごとく備われり、婚宴にのぞまれよ、と言え、と。**5**しかれども彼ら、これを顧みず、一人は、おのが作家さくやに、一人は、おのが商売しょうばいに行き、**6**その他は、しもべらを捕え、いたくはずかしめて殺ししかば、**7**王これを聞きて怒り、軍勢ぐんせいを遣わして、かの人殺しどもを滅ぼし、その町を焼き払えり。**8**時に王、そのしもべらに言ひけるは、婚宴すでに備わりたれども、招かれし人々は「客となるに」堪えざりしゆえ、**9**町に行きて、すべて会う人を婚宴に招け、と。**10**しもべら道々に出でて会う人を、良きも悪しきもことごとく集めしかば、客は婚宴の場に満ちたり。**11**王、客を見んとて入り來り、一人婚礼の服1をつけざる者あるを見て、これに向かい、**12**友よ、いかんぞ婚礼の服をつけずして、ここに入りしや、と言ひけるに、彼は默然たりき。**13**王、ついに給仕らに言ひけるは、彼の手足てあしを縛りて、これを外の闇に投げ出だせ、そこには嘆きと歯がみとあらん、と。**14**それ召されたる人は多けれども、選まるる人は少なし、と。**15**セザルのものはセザルに返せ(マルコ20:12-13) **16**言葉じりを捕えんと相計り、**17**おのが弟子らをヘロデの党とうとともに遣わして言わせけるは、師よ、汝が眞実にして、真理によりて神の道を教え、かつ人にえこひいさせざるをもつて、たれにもは

17 ばかりざるは、われらの知れることなり。17されば、セザルにみづぎを納むるは、よきやいな  
 や、思うところを、われらに告げよ、と。18イエズス、彼らの狡猾こうかを知りてのたまいけるは、偽ぎ  
 善者ぜんじやよ、何ぞ、われを試むる。19みづぎの金を、われに見せよ、と。彼ら、テナリオを差し出だし  
 たるに、<sup>3</sup>20イエズスのたまいけるは、この像ぞうと銘めいとは、たれのなるか、と。21彼ら、セザルのな  
 り、と言う。時にイエズスのたまいけるは、さらばセザルのものはセザルに返し、神のものは神  
 に返せ、と。22彼ら聞きて感嘆し、イエズスを離れて去れり。

22 復活よみがえりにつきてのご答弁マルコ12:27~40（マルコ12:27~40） 23復活なしと主張せるサドカイ人ら、この日イエズ  
 スに近づき聞いて、24言ひけるは、師よ、モイゼイわく「人もし子なくして死なば、その兄弟、  
 彼が妻をめどりて、兄弟のために子をあぐべし」と、25しかるに、われらのうち七人の兄弟あり  
 しに、兄、妻をめどりて死し、子なかりしかば、その妻を弟に残しづが、26その第二、第三より  
 第七まで同じようにして、27最後に女もまた死せり。28されば復活よみがえりの時にあたりて、この女は七  
 人のうち、たれの妻たるべきか、そは、みな彼をめどりたればなり。29イエズス答えてのたまい  
 けるは、汝ら聖書をも神の力をも知らずして誤れり。30復活よみがえりの時、人は、めどらず嫁とつがず、天に  
 おける神の使たちのごとくならん。31死人の復活よみがえりにつきては、汝ら神より言われしところを読ま  
 ざりしか。32すなわち汝らにのたまわく「われはアブラハムの神、イザアクの神、ヤコブの神な  
 り」と。死者の神にはあらず、生者せいしゃの「神」にてまします、と。33群衆これを聞きて、その教えを  
 感嘆せり。

34 最大の掟マルコ12:34

\* 34さてファリザイ人ら、イエズスがサドカイ人ハラを開口せしめ給いしを

聞きて相集まりしが、<sup>35</sup>中に一人の律法學士<sup>\*</sup>、イエズスを試みて問ひけるは、<sup>36</sup>師よ、律法において大いなる捷はいぞれぞや。<sup>37</sup>イエズスのたまひけるは、「汝、心をつくし、靈をつくし、意をつくして主たる汝の神を愛すべし」、<sup>38</sup>これ最も大いなる第一の捷なり。<sup>39</sup>第二もまた、これに似たり、「汝の近き者を、おのれのごとく愛すべし」。<sup>40</sup>すべての律法<sup>\*</sup>と予言者<sup>\*</sup>とは、この二つの捷によるなり。

キリスト、ダヴィードの子たること（マルコ20:12～41<sup>35</sup>）<sup>41</sup> フアリザイ人の集まれるに、イエズス聞いて、<sup>42</sup>のたまひけるは、汝らキリストにつきて、いかに思うぞ、たれの子なるか、と。彼ら、ダヴィードの「子」なり、と言ひければ、<sup>43</sup>イエズスのたまひけるは、しかばダヴィード「聖」靈によりて彼を主となうるはいかん、<sup>44</sup>いわく「主、わが主にのたまえらく、われ汝の敵を汝の足台となすまで、わが右に坐せよ」と、<sup>45</sup>しかば、ダヴィード彼を主となうるに、彼いかでか、<sup>46</sup>その子ならんや、と。<sup>46</sup>みな、たれ一言もイエズスに答へることあたわず、この日より、また、あえて問う者なかりき。

①このころ客を招待する時は同時に礼服をも供給する礼法があった。②ローマ皇帝。③およそ三十せんに当たる銀貨。

④申命記25:5、6 ⑤出エジプト記3:6 ⑥申命記6:5 ⑦レビ記19:18 ⑧詩編109:1



譴責し給う（マルコ20:45～47）

1その時、イエズス、群衆と弟子とに語りて、2のたまひけるは、律法學士<sup>\*</sup>とフアリザイ人とはモイゼの講座に坐せり。<sup>3</sup>されば彼らの汝らに言うところは、ことごとく守りて行なえ、されど彼らの行ないにならないて行なうことなけれ、彼らは<sup>4</sup>言ひて、しかも行なわざればなり。4すなわち彼らは、重く、にないがたき荷をくくりて人の肩

にのすれど、おのが指先にて、これを動かすことをすら否む。<sup>5</sup> そのすべての行ないは人に見られんためにして、すなわち、その経牌<sup>けいはい<sup>1</sup></sup>を広くし、そのふさ<sup>2</sup>を大きくす。<sup>6</sup> また宴席にては上席、会堂にては上座、<sup>7</sup> 巷<sup>ちまち</sup>にては人の敬礼、またラビ<sup>3</sup>と呼ばることを好む。

**謙遜すべし** <sup>8</sup> 汝らはラビと呼ばることなかれ、汝らの師は一人にして、汝らは、みな兄弟なればなり。<sup>9</sup> また地上の人を汝らの父となうることなかれ、汝らの父は天にましますひとりのみなればなり。<sup>10</sup> また指導師<sup>4</sup>となえらることなかれ、汝らの指導師は一人にして、すなわちキリストなればなり。<sup>11</sup> 汝らのうち最も大いなる者は汝らのしもべとなるべし。<sup>12</sup> 自ら高ぶる人は下げられ、自ら、へりくだる人は上げらるべし。

**禍いの八力条** <sup>13</sup> 禍いなるかな、汝ら偽善なる律法學士、ファリザイ人らよ、そは人の前に天

国を閉じて、おのれも入らず、入りつつある人々をも入らしめざればなり。<sup>14</sup> 禍いなるかな、汝ら偽善なる律法學士、ファリザイ人らよ、そは長き祈りを唱えて寡婦<sup>やもめ</sup>らの家を食いつくせばなり。<sup>15</sup> 汝らは、これによりて最もきびしき審判を受けん。<sup>16</sup> 禍いなるかな、汝ら偽善なる律法學士、ファリザイ人らよ、そは一人の信者を作らんとて海陸を経巡り、すでに作れば、これをおのれに倍せる地獄の子となせばなり。<sup>17</sup> 禍いなるかな、汝らめしいなる手引きよ、汝らは言う、「すべて人、〔神〕殿をさして誓うは事にもあらず、〔神〕殿の黄金<sup>こがね<sup>6</sup></sup>をさして誓わば果たさざるべからず」と。17愚かにしてめしいなる者どもかな、いざれか大いなるぞ、黄金<sup>こがね</sup>か、はた黄金を聖ならしむ

る〔神〕殿か。<sup>18</sup> 「汝らはまた言う」「すべて人、祭壇をさして誓うは事にもあらず、その上なる供え物をさして誓わば果たさざるべからず」と。<sup>19</sup> めしいらよ、いざれか大いなるぞ、供え物

か、はた供え物を聖ならしむる祭壇か。20されば祭壇をさして誓う人は、祭壇と、すべてその上なるものとをさして誓うなり。21また、すべて「神」殿をさして誓う人は、「神」殿と、その内に住み給うものとをさして誓うなり。22また、天をさして誓う人は、神の玉座と、その上に坐し給うものとをさして誓うなり。23禍いなるかな、汝ら偽善なる律法學士、ファリザイ人らよ、汝らは薄荷、茴香、馬芹の十分の一を納めて、しかも律法においてなお重大なる正義と慈悲と忠実とを残せり、このことどもをなしてこそ、かのこととも怠らざるべかりしなれ。24ぼうふりをこし出だして、らくだを飲むめしいなる手引きどもよ。25禍いなるかな、汝ら偽善なる律法學士、ファリザイ人らよ、そは杯と皿との外を清めて、内はむさぼりと汚れとに満ちたればなり。26汝めしいなるファリザイ人よ、まず杯と皿との内を清めよ、しからば外も清くなるべし。27禍いなるかな、汝ら偽善なる律法學士、ファリザイ人らよ、そは白く塗りたる墓に似たればなり。外は人にうるわしく見ゆれども、内は死人の骨と、もろもろの汚れとに満てり。28かくのごとく汝らも外は義人のごとく人に見ゆれども、内は偽善と不義とに満てり。29禍いなるかな、汝ら偽善なる律法學士、ファリザイ人らよ、汝らは予言者たちの墓を建て、義人たちの記念碑を飾りて、30いわく、「われら、もし先祖の時代にありしならば、予言者たちの血「を流す」にくみせざりしものを」と。31かくて汝らは予言者たちを殺しし人の子孫たることを自ら証するなり。32さらば汝らも先祖のます目を満たせよ。

**天罰を告げ給う** 33蛇どもよ、まむしの末よ、汝ら、いかでか地獄の宣告をのがれん。34されば見よ、われ汝らに予言者、知者、律法學士らを遣わせども、汝らは、そのある者を殺し、十字

35 架につけ、ある者を汝らの会堂にむち打ちて町より町に追い責めん。35 かくて義人アベルの血よ  
 り、汝らが「神」殿と祭壇との間にて殺ししバラキアの子ザカリアの血<sup>9</sup>に至るまで、すべて地上  
 に流されたる正しき血は、汝らの上に帰すべし。<sup>36</sup> われ誠に汝らに告ぐ、このこと、みな現代の  
 上に帰すべし。37 エルザレムよ、エルザレムよ、予言者たちを殺し、かつ汝に遣わされたる人々  
 に石を投げ打つ者よ、われ牝鷄<sup>めんどり</sup>の、そのひなを翼<sup>つばさ</sup>の下に集むることく汝の子どもを集めんとせし  
 こと幾たびぞや、されど汝これを否めり。38 見よ、汝らの家は荒れすたれて、汝らに残されん。  
 39 われ汝らに告ぐ、汝ら「主の名によりて来る者は祝せられ給え」と言うまでは、今よりわれを  
 見ざるべし、「と語り給えり」。

- ① 経牌とは聖書の抜句を入れた皮の小箱でユダヤ人が額または左の腕につけるものであった。② ふさとは民数紀略  
 15・38、39によって上着の四隅につけるふさのこと。③ 師、先生の意。④ ラテン訳では師。⑤ 地獄に置かれる  
 はずの者の意。⑥ 聖殿の宝物あるいは祭器の意。⑦ 納めるにも及ばないきさいなものに至るまで。⑧ 創世記  
 4・10 ⑨ 歴代史略下 24・20~22

### 第三項 イエズス、エルザレムの滅亡等を予言し給う

1 第三項予言の機会(マルコ21:1~6) 1 イエズス「神」殿を出でて行き給いけるに、弟子  
 2 たち「神」殿の構造を示さんとて近づきしかば、2 答えてのたまいけるは、汝ら、このいっさい  
 のものを見るか、われ誠に汝らに告ぐ、ここには一つの石もくずれずして石の上に残されじ、と。  
 3 滅亡の前兆(マルコ7:3~23) 3 かくてかんらん山に坐し給えるに、弟子たちひそかに近づき

て言ひけるは、このことどものあらんは、いつなるぞ、また汝の再臨<sup>さいりん\*</sup>と世の終わりとの印は何なるぞ。4 イエズス答えてのたまひけるは、汝ら人にはまどわされじと注意せよ。5 そは多くの人、  
 6 わが名を冒し來りて、われはキリストなりと言ひて多くの人をまどわすべければなり。6 すなわ  
 ち汝ら戦いと戦いの噂<sup>うわき</sup>とを聞かん、しかも慎しみて心を騒がすことなかれ、これらのこと、けだ  
 7 しあるべし、されど終わりは、いまだ至らざるなり。7 すなわち民は民に、國は國に立ち逆らい、  
 9-8 また疫病<sup>えきびょう</sup>、飢饉<sup>ききん</sup>、地震、所々にあらん、8 これみな苦しみの初めなり。9 その時、人々汝らを困  
 10 難に落とし入れ、また死に処し、汝らわが名のために万民に憎まれん。10 その時、多くの人つま  
 12-11 ずきて互いに裏切りし、互いに憎み、11 また偽予言者多く起とりて、多くの人をまどわさん、12  
 13 かつ不義のあふれたるによりて、多数の人の愛冷えん、13 されど終わりまで堪え忍ぶ人は救わる  
 14 べし。14 「天」国この福音は、万民に証<sup>じょう</sup>として全世界に述べ伝えられん、かくてのち終わりは  
 15 至るべし。15 されば汝ら、予言者ダニエルによりて告げられし「いと憎むべき荒廃<sup>こうはい</sup>」が聖所に嚴<sup>げん</sup>  
 16 然たるを見ば、16 読む人悟るべし。その時、ユデアにおける人は山にのがるべし、17 屋根における人  
 18 は、その家より何ものをか取り出ださんとてくだるべからず、18 畑<sup>はた</sup>における人は、その上着を取らん  
 とて帰るべからず。19 その日にあたりて懷胎せる人、乳を飲まする人は禍いなるかな。20 汝らの  
 21 逃ぐることの、あるいは冬、あるいは安息日に当たらざらんことを祈れ。21 その時には、世の初  
 22 めよりかつてなく、またのちにもあるまじきほどの大いなる患難あるべければなり。22 その日も  
 23 し縮められずば、救わる人なからん、されど、その日は選まれたる人々のために縮めらるべし。  
 23 その時もし人ありて汝らに、「見よ、キリストはここにあり、かしこにあり」と言うとも信ず

24 ることなれ、24 そは偽キリストおよび偽予言者起こりて、大いなる印と奇跡とを行ない、あた  
 25 うべくんば選まれたる人々をさえも、まどわさんとすべければなり。25 われ、あらかじめこれを  
 汝らに告げたるぞ。されば汝ら、たとい「見よ、キリストは荒野あれのにあり」と言わるとも出するこ  
 となれ、26 「見よ、奥の間にあり」と言わるとも信ずることなれ、27 そはいなずまの東より  
 出でて西にまで見ゆることく、人の子の来るもまたしかるべきなり。28 すべて屍しかばねのある所に  
 は、わしもまた集まらん。<sup>2</sup>

世の終わり（マルコ21:13・24～25、31） 29 この日々の患難ののち、ただちに日暗み、月その光を与えず、  
 30 星、天より落ち、天の能力すべて動搖せん。30 その時、人の子<sup>\*</sup>の印、空に現われん。その時また  
 地の民族ことごとく嘆き、人の子が大いなる能力と威光とをもつて空の雲に乗り来るを見ん。31  
 彼、声高きラッパを持てる、おのが天使たちを遣わし、天のこの果はより、かの果まで、四方より  
 32 その選まれし人々を集めしめん。32 汝らいいちじくの木よりたとえを学べ、その枝すでに柔らきて  
 葉の生ずる時、汝らは夏の近きを知る。33 かくのごとく、このいつさいのことを見ば、すでに門  
 に近しと知れ。34 われ誠に汝らに告ぐ、これらのことの、みななるまでは現代は過ぎざらん。35  
 天地は過ぎん、されど、わが言葉は過ぎざるべし。

警戒すべし（マルコ21:13・32～34、36～37） 33 その日その時をば何人も知らず、天使すらも知らず、知り給  
 34 えるはただ父一人のみ。37 ノエの日におけるごとく人の子の来るもまたしからん。38 すなわち洪  
 39 水の前のころ、ノエの箱舟はこぶねに入るその日までも、人々飲み食い、めとり嫁ぎして、39 洪水来りて、  
 40 ことごとく彼らを引きさらうまで知らざりしごとく、人の子の来るもまたしからん。40 その時、

41 二人烟にあらんに、一人は取られ、一人は残されん。42 二人の女、うすをひきおらんに、一人は取られ、一人は残されん。43 されば汝ら警戒せよ、汝らの主の来り給うは、いづれの時なるかを知らざればなり。

43 家父<sup>かふ</sup>らの例 43 汝ら、これを知れ、家父もし盜賊の来るべき時を知らば、必ず警戒して、その家をうがたせじ。44 されば汝らも用意してあれ、汝らの知らざる時に人の子<sup>\*</sup>来るべければなり。45 時に応じて糧<sup>かま</sup>を、そのしもべらに与えさせんとて、主人が彼らの上に立てたる忠誠怜憫<sup>れいひ</sup>なるしもべを、たれと思うぞ。46 その主人の来らん時、しかするを見出だされたるしもべは幸いなり。47 われ誠に汝らに告ぐ、主人は、そのすべての持ち物を、これにつかさどらしめん。48 されど、もし、かの悪しきしもべ、心のうちに「主人の来ること遅し」と言ひて、49 その同輩<sup>どうばい</sup>に打ちかかり、酒飲みと酒食<sup>しゅしょく</sup>をともにせば、50 そのしもべの主人、彼が思わざる日、知らざる時に来りて、51 これを处罚し、その報いを偽善者と同じゆうすべし、そこには嘆きと歯がみとあらん。

①マルコ13・14と20、ルカ21・20と24、ダニエル9・27 ②謡である。わしとは大し鳥の意である。罪人はどこで死んでも審判と处罚とをまぬがれないとの意に解することができる。③創世記7

10 十人の乙女のたとえ 1 その時、天国は十人の乙女<sup>おとめ</sup>、めんめんの灯<sup>ともしび</sup>を取りて花婿<sup>はなむき</sup>と嫁<sup>よめ</sup>とを迎えて出でたるごとくならん。2 そのうち五人は愚かにして五人は賢し、3 愚かなる五人は灯を取りて油を携えざるに、4 賢きは灯とともに油を器に携えたり。5 花婿遅かりければ、みな仮寝<sup>かりね</sup>して眠りたりしが、6 夜中に「すわ花婿来るぞ、出で迎えよ」との声ありしかば、7 乙女みな起きて、その灯を整えたり。8 愚かなるが賢きに言ひけるは、汝らの油を、われらに分か

て、われらの灯消ゆ、と。9 賢きが答えて言ひけるは、おそらくは、われらと汝らとに足らじ。  
 10 むしろ売る者に行きて自らのために買え、と。10 彼らが買わんとて行きける間に、花婿來りしか  
 11 ば、用意してありし者どもは、彼とともに婚宴に入り、さて門は閉ざされたり。11 やがて他の乙  
 12 女らも來りて、主よ、主よ、われらに開き給え、と言ひおれども、12 彼答えて、われ誠に汝らに告  
 13 ぐ、われは汝らを知らず、と言えり。13 されば警戒せよ、汝らはその日その時を知らざればなり。  
 14 タレントのたとえ 14 「天国は」すなわち、ある人遠く旅立たんとして、そのしもべらを呼び、  
 15 これに、わが持ち物を渡せるがごとし。15 一人には五タレント<sup>1</sup>、一人には二タレント、一人には  
 16 一タレントを、おののおのその器量きりょうに応じて渡し、さてただちに出立しゅつたつせしが、16 五タレントを受け  
 17 し者は行きて、これをもつて取り引きして、ほかに五タレントをもうけ、17 二タレントを受けし  
 18 者も同じようにして、ほかに二タレントをもうけしに、18 一タレントを受けし者は、行きて地を  
 19 掘り主人の金を隠しあけり。19 久しううしてのち、このしもべらの主人來りて彼らと計算せしが、  
 20 五タレントを受けし者近づきて別に五タレントを差し出だして言ひけるは、主君よ、われに五タ  
 21 レントを渡し給いしが、見よ、別にまた五タレントをもうけたり、と。21 主人言ひけるは、よし、  
 善にして忠なるしもべよ、汝いささかなるものに忠なりしにより、われ汝に多くのものをつかさ  
 どらしめん、汝の主人の喜びに入れよ、と。22 二タレントを受けし者もまた、近づきて言ひける  
 23 は、主君よ、われに二タレントを渡し給いしが、見よ、別にまた二タレントをもうけたり、と。23  
 主人言ひけるは、よし、善にして忠なるしもべよ、汝いささかなるものに忠なりしにより、われ  
 24 汝に多くのものをつかさどらしめん、汝の主人の喜びに入れよ、と。24 一タレントを受けし者も

また近づきて言いけるは、主君よ、われ汝のきびしき人にして、まかざる所より刈り、散らさざる所より集むるを知り、<sup>25</sup>恐れて、行きて汝のタレントを地に隠しあけり、見よ、汝おのがものを有す、と。<sup>26</sup>主人答えて言いけるは、悪しくして乱惰なるしもべよ、汝、わがまかざる所より刈り、散らさざる所より集むるを知りたれば、<sup>27</sup>わが金を両替屋に預くべかりき、さらば、われ來りて、わがものを利子とともに受けしならん。<sup>28</sup>されば汝ら、この者よりそのタレントを取りて十タレン트を持てる者に与えよ、<sup>29</sup>けだしすべて持てる人は与えられて豊かならん、されど持たぬ人は、その持てりと思わるところまでも奪われん、<sup>30</sup>無益なるしもべを外の間に投げ出だせ、そこには嘆きと歯がみとあらん、と。

## 審判のありさま

<sup>31</sup>人の子\*おのが威光いこうをもつてもろもろの「天」使を従えて来らん時、その威光の座に坐せん。<sup>32</sup>かくて万民を、その前に集め、彼らを分かつこと、あたかも牧者が羊と牡山羊とを分かつがごとく、<sup>33</sup>羊を右に、牡山羊を左に置かん。<sup>34</sup>時に王は、その右におる者に言わん、来れ、わが父に祝せられたる者よ、世界開闢かいびやくより汝らのために備えられたる國を得よ。<sup>35</sup>そは、わが飢えしに汝ら食せしめ、わが渴きしに汝ら飲ましめ、わが旅人なりしに汝ら宿らせ、<sup>36</sup>裸なりしに着せ、病みたりしに見舞い、監獄にありしに來りたればなり、と。<sup>37</sup>この時、義人たち彼に答えて言わん、主よ、われら、いつ飢え給うを見て主に食せしめ、渴き給うを「見て」主に飲ましめ、<sup>38</sup>いつ旅人にませるを見て主を宿らせ、また裸にませるを「見て」主に着せしぞ、と。<sup>39</sup>また、いつ病み給い、あるいは監獄に居給うを見て主に至りしぞ、と。<sup>40</sup>王答えて彼らに言わん、われ誠に汝らに告ぐ、汝らが、わがこの最も小さき兄弟の一人になしたるところは、こ

41 とごとに、すなわち、われになししなり、と。41 かくて左におる者にもまた言わん、呪われたる  
 者よ、われを離れて、悪魔とその使らとのために備えられたる永遠の火に「入れ」。42 そは、わ  
 が飢えしに汝ら食せしめず、わが渴きしに汝ら飲ましめず、43 わが旅人なりしに汝ら宿らせず、  
 裸なりしに汝ら着せず、病み、また監獄にありしに汝ら見舞わざりしゆえなり、と。44 この時、  
 彼らも王に答えて言わん、主よ、われらいつ主の飢え、あるいは旅人たり、ある  
 いは裸なり、あるいは病み、あるいは監獄に居給うを見て主に仕えざりしそ、と。45 この時、王  
 彼らに答えて言わん、われ誠に汝らに告ぐ、汝らが、この最も小さき者の一人になさざりしとこ  
 ろは、ことごとに、すなわち、われになさざりしなり、と。46 かくて、これらの人は永遠の刑罰  
 に入り、義人は永遠の生命に入るべし、と。

① タレントは、およそ二千四百円に当たる。② 方民の王たる資格をもつて。

#### 第四項 敵らいエズスの死刑を計る

1 また受難を予言し給う 1 イエズスすべてこの物語を終わり給いて、弟子たちにの  
 2 たまひけるは、2 汝らの知れることく一日ののちは過ぎ越しの祝い行なわれん。さて人の子は十  
 字架につけられんために渡さるべし、と。

3 衆議所の協議（マルコ 22:14; 1, 2） 3 その時、司祭長<sup>\*</sup>、民間の長老ら、カイファと言える司祭長  
 の庭に集まり、4 たばかりでイエズスを捕えて殺さんと計りしが、5 言えらく、祝い日には、こ

れをなすべからず、おそらくは騒動、人民のうちに起こらん、と。

イエズス、香油を注がれ給う（マルコ14・3～9）<sup>6</sup>さてイエズス、ベタニアにて、らい病者シモンの家に居給いけるに、<sup>7</sup>ある女、<sup>1</sup>価高き香油を盛りたる器<sup>12</sup>を持ちてイエズスに近づき、食につきい給える頭<sup>13</sup>に注ぎしが、<sup>8</sup>弟子たち、これを見て憤り、その費えは何のためぞ、<sup>9</sup>こは高く売りて貧者に施すを得たりしものを、と言ひけるを、<sup>10</sup>イエズス知りて彼らにのたまひけるは、何ぞ、この女をわざらわすや、彼は、われに善業をなせり。<sup>11</sup>けだし貧者は常に汝らとともにおれども、われは常におらず。<sup>12</sup>この女が、この香油をわが身に注ぎしは、われを葬らんとてなしたるなり。<sup>13</sup>われ誠に汝らに告ぐ、全世界いざことにもあれ、この福音の述べ伝えられん所には、この女のなししことも、その記念として語らるべし、と。

ユダの裏切り（マルコ14・10～11）<sup>14</sup>時に十二人の一人イスカリオテのユダと言える者、司祭長<sup>\*</sup>らのもとに行きて、<sup>15</sup>汝らわれに何を与えるとするか、われ汝らに彼を渡さん、と言ひしに、彼ら銀三十枚を約せしかば、<sup>16</sup>ユダこの時よりイエズスを渡さんとして、おりをうかがいしたり。

## 第五項 最終の晩さん

晚さんの予備（マルコ22・14～16）<sup>17</sup>種なしパン<sup>\*</sup>の祝いの日、弟子たちイエズスに近づきて言ひけるは、われらが汝のために備うる過ぎ越しの食事は、いざこならんことを望み給うか。<sup>18</sup>イエズスのたまひけるは、汝ら町に行き、なにがしのものと至りて、師いわく、わが時近づけり、わ

19 れ弟子とともに汝の家に過ぎ越しを行なわんとす、と言え、と。 19 弟子たちイエズスに命ぜられしごとくにして過ぎ越しの備えをなせり。

**律法的晩さん**（マルコ14・17、ヨハネ13・29） 20 夕暮に及びて、イエズス十二弟子とともに食につき給いしが、21 彼らの食しつつあるほどにのたまいけるは、われ誠に汝らに告ぐ、汝らのうち一人われを渡さんとす、と。 22 彼ら、はなはだ憂いて、主よ、そはわれなるか、と、おののおの言い出でしに、23 イエズス答えてのたまいけるは、われとともに鉢に手をつくる者、われを渡さん。 24 そもそも人の子は、おのれにつきて書きしるされたるごとく行くといえども、人の子を渡す者は禍いなるかな、生まれざりしならば、むしろ彼にとりてよからしものを、と。 25 イエズスを売りしユダ答えて、ラビ<sup>4</sup>、そはわれなるか、と言いしに、イエズス、汝の言えるがごとし、とのたまえり。

**聖体の設立**（マルコ14・22、ヨハネ20・25） 26 一同晩さんしつつあるに、イエズス、パンを取り祝してこれを裂き、弟子たちに与えてのたまいけるは、汝ら取りて食せよ、これわが体なり、と。 27 また杯を取りて謝し、彼らに与えてのたまいけるは、汝らみなこれより飲め。 28 これ罪を許されんとして、衆人のために流さるべき新約のわが血なり。 29 われ汝らに告ぐ、わが父の国にて汝らとともに新たなるものを飲まん日までは、われ今より、このぶどうの汁を飲まじ、と。

**弟子らのつまずきの予言**（マルコ14・26、ヨハネ13・36） 30 かくて贊美歌を唱え終わり、みなかんらん山に出で行きけるに、31 イエズスのたまいけるは、今夜、汝らみな、われにつきてつまずかん、そは書きしるして「われ牧者を擊たん、かくて群の羊散らん」とあればなり。 32 されど、われ、よみがえりてのち汝らに先立ちてガリレアに行かん。 33 ペトロ答えて言いけるは、たとい人

34 みな汝につきてつまづくとも、われはいつもつまづかじ。34 イエズス答えてのたまいけるは、われ誠に汝に告ぐ、今夜、<sup>にわたり</sup>鷦鳴く前に、汝三たびわれを否まん。35 ペトロ言ひけるは、たとい汝とともに死すべくとも、われ汝を否まじ、と。弟子たちみな同じよう言えり。

## 第六項 ゲッセマニにおけるイエズス

36 イエズスのご心痛(マルコ14・32、ヨハネ18・1) 36 かくてイエズス、彼らとともにゲッセマニと言

える田舎家に至り、弟子たちに向かいて、わが、かしこに行きて祈る間、汝らここに坐せよ、とのたまい、37 ペトロとゼベデオの二人の子とを携えて憂い悲しみ出で給えり。38 さて彼らにのたま  
いけるは、わが魂、死ぬばかりに憂う、汝らここに留まりて、われとともに目覚めてあれ、と。

39 さて少しく進み行き平伏して祈りつつのたまいけるは、わが父よ、もしあたうべくば、この杯  
われより去れかし、されどわが意のままにとにはあらず、おぼしめしのことくなれ、と。40 か  
くて弟子たちのもとに至り、彼らの眠れるを見てペトロにのたまいけるは、かくも汝ら、一時間  
をわれとともに目覚めおるあたわざりしか、41 誘惑に入らざらんために目覚めて祈れ、精神は、  
42 はやれども肉身は弱し、と。42 再び行きて祈りのたまいけるは、わが父よ、この杯われこれを飲  
まずして去るあたわづば、おぼしめしなれかし、と。43 また再び至りて彼らの眠れるを見給えり、  
けだし彼らの目、疲れたるなり。44 また彼らを離れて行き、三たび目に同じ言葉を唱えて祈り給  
いしが、45 やがて弟子たちに至りてのたまいけるは、今は、はや眠りて休め、すわ時は近づけり、

46 人の子、罪人に渡されんとす。46 起きよ、行かん、見よ、われを渡す者近づけり、と。

### 第七項 イエズス捕えられ給う

47 イエズスの就縛(マルコ14・43、ヨハネ18・2、ルカ22) 47 なお語り給えるに、おりしも十二人の一人なるユダ來り、また司祭長、民間の長老らより遣わされたる大群衆、剣(つるぎ)と棒とを持ちてこれに伴えり。48 イエズスを売りし者、彼らに合図を与えて、わが接吻(せうぶん)するところの人それなり、彼を捕えよ、  
と言ひしが、49 ただちにイエズスに近づき、ラビ、安かれ、と言ひて接吻せり。50 イエズス彼に  
のたまいけるは、友よ、何のために来れるぞ、と。時に人々近づきてイエズスに手をかけて、こ  
れを捕えたり。

51 ペトロ、人の耳を切り落とす（ヨハネ18・10） 51 おりしもイエズスとともにありし者の一人、手  
をのべて剣(つるぎ)を抜き、司祭長のしもべを擊(う)ちて、その耳を切り落としあれば、52 イエズスこれにの  
たまいけるは、汝の剣をさやに收めよ、そはすべて剣を取る者は剣にて滅ぶべければなり。53 わ  
れ、わが父に求め得ずと思うか、父は必ず、ただちに十二隊にも余れる天使を、われに賜うべし。  
54 もし、しかば、かくあるべしと言える聖書の言葉、いかでか成就せん、と。55 同時にイエズ  
ス群衆にのたまいけるは、汝ら強盜に向かうごとく剣と棒とを持って、われを捕えに出で來りし  
か、われ日々〔神〕殿にて汝らの中に坐して教えおりしに、汝らわれを捕えざりき。56 されど、す  
べてのことのなれるは予言者たちの書の成就せんためなり、と。

弟子たち逃ぐ（マルコ14・20 50）

この時、弟子たちみなイエズスをおきて逃げ去れり。

## 第八項 イエズス、カイファの家に引かれ給う

**衆議所への出廷**（マルコ14・53、ヨハネ13・19、ルカ22・23<sup>54</sup>） 57 イエズスを捕えたる人々、すでに律法学者<sup>\*</sup>、長老らの相集まりいたる司祭長カイファの家に引き行きしが、58 ペトロはるかにイエズスに従いて司祭長の庭まで至り、成り行きを見んとて内に入り、しもべらとともに坐したり。59 司祭長らと、すべての議員とは、イエズスを死に処せんとて、これに対する偽証<sup>さしよ</sup>を求め、60 あまたの偽証人來りたれども、なおこれを得ざりしが、ついに二人の偽証人來りて、61 言いけるは、この人「われは神殿をこぼちて三日ののち再びこれを建て直すことを得」と言えり、と。62 司祭長立ちてイエズスに向かい、この人々の汝に対して証するところに汝は何をも答えざるか、と言いしも、63 イエズス黙<sup>もく</sup>しい給えば、司祭長言いけるは、われ生ける神によりて汝に命ず、汝は神の子キリストなるか、われらに告げよ。64 イエズスのたまいけるは、汝の言えるがごとし、しかれども、われ汝らに告ぐ、こののち汝ら、人の子<sup>\*</sup>が全能にまします神の右に坐して、空の雲に乗り来るを見るべし、と。65 この時、司祭長おのが衣服を裂きて言いけるは、彼、冒瀆の言葉を出だせり。われら何ぞなお証人を要せん、汝ら今冒瀆の言葉を聞きて、66 いかに思うぞ、と。彼ら答えて、その罪、死に当たる、と言えり。67 ここにおいて下役ら、イエズスの御顔につばきし、ごぶしにて打ち、ある者は平手にて御顔をたたきて言いけるは、68 キリストよ、汝を打てる者のたれなるかを、

われらに予言せよ、と。

**ペトロ、イエズスを否む** (マルコ14・66、ヨハネ18・15、ルカ22・25)

69さてペトロ外にて庭に坐したるに、

一人の下女(げじょ)これに近づき、汝もガリレアのイエズスとともにおりき、と言いしかば、70彼、衆人の前にて、これを否み、われ汝の言うところを知らず、と言えり。71門を出する時、また他の下女これを見て、居合わす人々に向かい、これもナザレトのイエズスとともにおりき、と言いたるに、72彼また誓いて、われ、かの人を知らず、と否めり。73しばらくありて、かたわらなる人々近づきてペトロに言ひけるは、汝も確かに彼らの一人なり、汝の方言(なまり)までも汝を表わせり、と。74ここにおいて彼、その人を知らずとて呪い、かつ誓い始めしかば、たちまちにして鶏鳴けり。75かくてペトロ、イエズスが鶏鳴く前に汝三たびわれを否まんとのたまいし言葉を思い出だし、外に出でて、いたく泣けり。

①マグダレナ・マリア。 ②ルカ24・1 ③シルクとなつており一円十せんに当たる銀貨。 ④師よ、の意。 ⑤サカリア13・7 ⑥杯は苦難の形容である。 ⑦量瀆を忌む印として。

## 第九項 イエズス、ピラトの前に出廷(しゅうてい)し給う

**イエズス、ピラトに渡され給う** (マルコ15・1、ルカ22・28)

1夜明けに及びて、司祭長(じやうじょう)、民間の長老(じやうじやう)ら、みなイエズスを死に処せんと協議し、2縛りてこれを召し連れ、総督ポンシヨ・ピラトに渡せり。

3 ユダの失望と自殺（使徒行録） 3 時にイエズスを渡ししユダ、その宣告せられ給いしを見て後

4 悔し、三十枚の銀貨を司祭長、長老らにもたらしてこれを返し、4 われ無罪の血を売りて罪を犯せ  
 5 り、と言ひしかば、彼ら言ひけるは、われらにおいて何かあらん、汝自ら見るべし、と。5 ユダ、銀  
 6 貨を「神」殿の内に投げ捨てて去りしが、行きて繩をもて自らぐびれたり。6 司祭長ら、その銀  
 7 貨を取りて言ひけるは、これ血の価なればさいせん箱に入るべからず、と。7 すなわち協議して、  
 8 これにて焼き物師の烟はたけを買い、旅人の墓地はかちに当てたり。8 ゆえにこの烟、今日までもハケルダマ  
 9 すなわち血の烟はたけと呼ばれたり。9 ここにおいて予言者エレミアによりて言われしこと成就じようじゅせり、  
 10 いわく「彼らは、イスラエルの子らに値づもられしものの価なる銀貨三十枚を取り、10 焼き物師  
 の烟のために与えたり、主のわれに示し給えるごとし」と。

11 ピラトの前に出廷マルコ15・2と5、ヨハネ18・29と38） 11さてイエズス、總督そうどくの前に出廷し給いしに、總  
 督問いて言ひけるは、汝はユデア人の王なるか。イエズスのたまひけるは、汝の言えるがごとし、  
 12 と。12かくて司祭長、長老\*より訴えられ給えども、何ごとも答え給わざりければ、13ピラト  
 13これに言ひけるは、彼らが汝に対して、いかに大いなる証言をなすかを聞かざるか、と。14イエ  
 14ズスいぢこん一言もこれに答え給わざりしかば、總督感嘆すること、はなはだしかりき。

15 イエズスとバラバマルコ15・6と15、ヨハネ18・39、ルカ23） 15ここに祭日あたりて總督が人民の欲すると  
 16 ころの囚人しゆうじん一人を許すの例ありしが、16おりしもバラバと言える名高き囚人あるにより、17ピラ  
 17ト彼らの集まりたるに、汝らは、わがたれを許さんことを欲するか、バラバか、キリストと言える  
 18 イエズスか、と言えり。18そは人がねたみによりてイエズスを渡ししを知ればなり。19さて總督

法廷に坐しけるに、その妻、人を遣わして言ひけるは、汝この義人にかかわることなかれ、けだし、われ今日夢のうちに彼のために多く苦しめり、と。司祭長、長老ら人民に向かい、バラバをこいてイエズスを滅ぼさんことを勧めしが、總督答えて、汝らは一人のうち、いざれを許されんことを望むか、と言ひしに、彼ら、バラバを、と言ひしかば、ピラト言ひけるは、さらばキリストと言えるイエズスを、われいかに処分せんか。みないわく、十字架につけよ、と。總督、彼、何の惡をなししか、と言いたれど、彼らますます叫びて、十字架につけよ、と言ひいたり。ピラトその何のかいもなく、かえつて騒動のいや増すを見て水を取り、人民の前に手を洗いて言ひけるは、この義人の血につきて、われは罪なし、汝ら自ら見るべし、と。人民みな答えて、その血は、われらとわれらの子どもとの上に「かかれかし」と言ひしかば、總督、バラバを彼らに許し、イエズスをばむち打たせて十字架につけんため彼らに渡せり。

茨の冠(マルコ15:16-ヨハネ19:16) 27さて總督の兵卒らイエズスを役所に引き取り、全隊をそのもとに呼び集め、28その衣服をはぎて赤き上着を着せ、29茨の冠を編みて、その頭こうべにかむらせ、右の手に葦よしを持たせ、その前にひざまずきて、ユデア人の王よ、安かれ、と書いてあざけり、30また、これにつばはきかけ、葦を取りて、その頭こうべを打ちおれり。

## 第十項 十字架上の犠牲

きせい

十字架の道行き(マルコ15:20-ヨハネ19:23)

31 イエズスを嘲弄ちようろうしてのち、その上着をはぎても

<sup>32</sup>との衣服を着せ、十字架につけんとて引き行しが、<sup>32</sup>町を出ずる時、シモンと名づくるシレネ人に会いしかば、しいてこれにその十字架をになわせたり。<sup>33</sup>かくてゴルゴタすなわちされごうべと言える所に至り、<sup>34</sup>胆をませたるふど、<sup>35</sup>酒をイエズスに飲ませんとせしに、これをなめ給いて、飲むことをがえんじ給わざりき。

<sup>35</sup> 十字架につけられ給う（<sup>マルコ</sup><sub>15</sub>・<sup>24</sup><sub>23</sub>、<sup>ヨハネ</sup><sub>19</sub>・<sup>18</sup><sub>24</sub>）<sup>35</sup>彼らイエズスを十字架につけてのち、くじを引きて、その衣服を分かちしが、これ予言者によりて言われしことの成就せんためなり。いわく「彼ら互いに、わが衣服を分かち、わが下着をくじ引きにせり」と。<sup>36</sup>彼らまた坐してイエズスを守りおりしが、<sup>37</sup>その頭の上に、これユデア人の王イエズスなりと書きたる罪札を置けり。<sup>38</sup>二人の強盜および人々の嘲弄（<sup>マルコ</sup><sub>23</sub>・<sup>27</sup><sub>32</sub>）<sup>38</sup>さて、これとともに二人の強盜、一人はその右に、一人はその左に十字架につけられしが、<sup>39</sup>往来の人、イエズスをののしり、頭を振りて、<sup>40</sup>ああ汝、神殿をこぼちて三日のうちに、これを建て直す者よ、自らを救え、もし神の子ならば十字架よりおりよ、と言いいたり。<sup>41</sup>司祭長らもまた律法學士、長老らとともに同じく、あざけりて言いけるは、<sup>42</sup>彼は他人を救いしに自らを救うあたわず、もしイスラエルの王ならば、今、十字架よりおるべし、さらば、われら彼を信ぜん。<sup>43</sup>彼は神を頼めり、神もし彼をよみせば、今救い給うべし、そは「われは神の子なり」と言いたればなり、と。<sup>44</sup>イエズスとともに十字架につけられたる強盜らも、同じようにののしりいたり。

<sup>45</sup> イエズスのご死去（<sup>マルコ</sup><sub>15</sub>・<sup>33</sup><sub>37</sub>、<sup>ヨハネ</sup><sub>19</sub>・<sup>28</sup><sub>30</sub>）<sup>45</sup>かくて十二時より三時まで地上あまねく暗闇となりしが、<sup>46</sup>三時ごろ、イエズス声高く呼ばわりてのたまいけるは、エリ、エリ、ラマ、サバ

47 クタニ、と、これすなわち、わが神よ、わが神よ、何ぞ、われを捨て給いしや、の義なり。47 そ  
こに立てる者のうち、ある人々、これを聞きて、彼、エリアを呼ぶよ、と言いおりしが、48 やが  
て、そのうちの一人走り行き、海綿かいめんを取りて酢すを含ませ、葦よしにつけて彼に飲ませんとせるに、49  
50 他人、おけ、エリア来りて彼を救うやいなやを見ん、と言いたり。50 イエズスまた声高く呼  
ばわりて息絶え給えり。

ご死去の結果(マルコ23・15・38、ルカ23・45・38、47・39) 51 おりしも「神」殿の幕、上より下まで二つに裂け、地震い  
岩いわお破れ、52 墓開け、眠りたる聖人の屍かばね、多く起き上がりしが、イエズスの復活ののち、53 墓を出  
でて聖なる都に至り、多くの人に現われたり。54 百夫長および、これとともにイエズスを守れる  
人々、地震と起これることとを見て、はなはだ恐れ、彼は、げに神の子なりき、と言えり。

婦人らのこと(マルコ15・40、ルカ23・49) 55 さて、ここにガリレアよりイエズスに従いて仕えつつあり  
し多くの婦人、立ち離れておりしが、56 マグダレナ・マリアと、ヤコボ、ヨゼフの母なるマリア  
と、ゼベデオの子らの母と、そのうちにありき。

イエズス葬られ給う(マルコ15・42、ヨハネ19・38、ルカ23) 57 日暮に及びて、アリマテアの富者ヨゼフと  
言える者來り、おのれもイエズスの弟子なりければ、58 ピラトに至りてイエズスの屍しかばねをこいたる  
に、ピラトこれを渡すことを命ぜしかば、59 ヨゼフ、屍を取りて清き布ぬのに包み、60 岩に掘りたる  
新しき墓に収め、その墓の入口に大いなる石を転まわばして去れり。61 マグダレナ・マリアと、ほか  
のマリアとは、そこにありて墓に向かいて坐したり。

62 墓の番兵 62 翌日、すなわち用意日の次の日、司祭長、ファリザイ人ら、ピラトのもとにつど

い至りて、<sup>63</sup> 言ひけるは、君よ、われら思い出だしたり、かの偽り者なお存命せし時、われ三日  
ののち復活せん、と言ひしなり。<sup>64</sup> されば命じて三日目まで墓を守らせよ、おそらくはその弟子  
ども來りてこれを盗み、死より復活したり、と人民に言わん、さらばのちのまどいは、前よりも、  
はなはだしかるべし、と。<sup>65</sup> ピラト彼らに向かい、汝らに番兵あり、行きて思うままで守れ、と  
言ひければ、<sup>66</sup> 彼ら行きて石に封印し、番兵に墓を守らせたり。

<sup>①</sup> ザカリア 11・13、エレミア 18・2、3、32・6~15 <sup>②</sup> あるいは苦味。<sup>③</sup> 原文には六時より九時まで。 <sup>④</sup> ご受難  
の予言であった詩編22（ラテン訳21）の初めの言葉。<sup>⑤</sup> 土曜日。

## 第四編 キリストのご復活

### ご復活の事がら（マルコ 16・1~8、ルカ 24・1~11、ヨハネ 20）

1 かくて安息日の終わり、すなわち一週  
の初めの夜明けに、マグダレナ・マリアと、ほかのマリアと、<sup>2</sup> おりし  
も大いなる地震あり、すなわち主の使、天よりくだり、近づきて石を転ばしのけ、さてその上に  
坐せしが、<sup>3</sup> その形はいなずまのごとく、その衣服は雪のごとし。<sup>4</sup> 番兵ら恐れおののきて死人  
のごとくなれり。<sup>5</sup> 天使、婦人らに答えて言ひけるは、汝ら恐ることなかれ、けだし、われ汝  
らが十字架につけられ給いしイエズスを尋ねるを知れり。<sup>6</sup> 彼は、ここにいまさず、すなわち、  
のたまいしごとく復活し給えり。來りて主の置かれ給いたりし所を見、<sup>7</sup> かつ、とく行きて弟子  
たちに、その復活し給いことを告げよ。彼は汝らに先立ちて、すでにガリレアに行き給う、汝

<sup>8</sup> ら、かしこに、これを見るべし「と言え」、われ、あらかじめ、これを汝らに告げたるぞ、と。<sup>8</sup>

婦人ら、恐れと大いなる喜びとをいだきて、速かに墓を去り、弟子たちに告げんとて走れり。  
 婦人らに現われ給う <sup>9</sup> おりしもイエズス彼らに行き会い、安かれ、とのたまいかれば、彼ら近づきて御足を抱き、これを礼拝せり。10 時にイエズス彼らにのたまいけるは、恐るるなかれ、行きて、わが兄弟たちにガリレアに行けと告げよ、彼ら、かしこに、われを見るべし、と。

**番兵賄賂を愛く** <sup>11</sup> 婦人らの去りしおりしも、番兵のうち数人の者ども町に至り、ありしことを、ことごとく司祭長らに告げしかば、<sup>12</sup> 彼らは長老らと相集まりて協議し、金を多く兵卒らに与えて、<sup>13</sup> 言いけるは、汝ら、かく言え、彼の弟子ども夜來りて、われらの眠れるうちに彼を盜めり、と。<sup>14</sup> このこと、もし總督そうとくに聞こえなば、われら彼を説きて汝らを無事ならしめん、と。<sup>15</sup> 番兵ら金を取りて、言い含められしごとくにしたれば、この物語は、<sup>今日に至るまでもユダ</sup>人のうちに広まれり。

**弟子たちに現われ給う** <sup>16</sup> かくて十一の弟子、ガリレアに行き、イエズスの彼らに命じ給いし山に「至り」、<sup>17</sup> イエズスを見て礼拝せり。されど疑う者もありき。<sup>18</sup> イエズス近づきて彼らに語りてのたまいけるは、天においても、地においても、いつさいの権能は、われに賜われり。<sup>19</sup> ゆえに汝ら行きて万民に教え、父と子と聖靈とのみ名によりて、これに洗礼をほどこし、<sup>20</sup> わが汝らに命ぜしことを、ことごとく守るべく教えよ。さて、われは世の終わりまで、日々汝らとともにおるなり、と。